

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M·O·H communication

30号

2011

Winter

特集：絆「町づくり」



「眼力ねこ」2010年 木彫 30x13cm

Tesso Mori

森 哲荘

木彫り一筋47年。お孫
さんと一緒に



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★M・O・H通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- M** → **もったいない** **循環** 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く
- O** → **おかげさま** **共生** 人は一人では生きられない、環境によって生かされている
- H** → **ほどほどに** **抑制** 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

contents

目次

特集「絆」— 町づくり

M・O・H対談 グローバル社会の中で「コンパクトシティ」を考える
持続可能性を実現するために 佐和 隆光& 森 建司 …… 5

M・O・H鼎談 持続可能社会のイメージに向かって—
いきいきと生活できる社会—人と医療にできること
笹田 昌孝 & 内藤 正明 & 森 建司 …… 12

M・O・Hレポート 1 職員とスタッフ、未来への挑戦
聴覚障害者の可能性を広げる多彩な訓練事業 中村 正 …… 21

M・O・H座談会 “近畿圏アクティブウーマン座談会～実践からの学びをバネにして～
しなやか&パワフル、女たちのまちづくり
片山 弘子 & 木田 薫 & 三浦 美香 …… 26

インターナショナルメッセージ独逸
訳せない言葉の中に日本を知る 原 修子 …… 40

寄稿 in 大中遺跡まつり (兵庫県播磨町)
ダンボールで古代ムラをつくろう! 上田 淳子 …… 41

寄稿
「秋の夜長を楽しむ夕べ」開催しました 上田 康世 …… 45

本の紹介 …… 48

心温まる物語
カムチャッカのエコ体験 今関 信子 …… 49

漫画
「山暮らし子育て日記」 オノ ミユキ …… 51

商家の家訓の話 第15回
釜屋小森久左衛門家の歴代とお助け普請 末永 國紀 …… 53

日本の精神
「日本」について学ぼうその四 井上 昌幸 …… 55

環人会報告 その1 大阪環の会報告
地域のお立ち寄りところ新道パトリ 奥野 修 …… 57

環人会報告 その2 環人会ツアーVol.14
寺内町は街と人のミュージアム 吉本 智 …… 60

講演日記 …… 63

M・O・Hニュース …… 64

M・O・Hせんりゅう …… 65

イベント案内
「M・O・Hの会」&「生産者・消費者交流会」 …… 67

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙イラスト
「ふゆのあいだに」

danny

1987年岡山生まれ。2008年 digmeout オーディション通過。2010年京都精華大学卒業。現在フリーのイラストレーターとして大阪で活動中

絆

■ 絆 — 「町づくり」



滋賀県指定無形文化財「勝部の火まつり」。
祭り当日は朝6時から松明に種殻がつけられる。
地域総出で夜10時過ぎまで祭りはつづく。

人の幸せとはなんだろうか。勿論個人差のある事で一概には言えないが、経済至上主義の世の中では、ほとんどの人は経済的に豊かになり、物質面で何一つ不自由のない生活が保障される事を最高の幸せと考えていた。またそれが社会常識となっていた。今も生活に困窮している人にとってはかわらぬ願望かも知れない。その願望を満たすためには、企業が利益を上げ、右肩上がりに拡大を続けることが前提条件となる。したがって企業に働く人にとって会社の利益のためになることであれば、家庭を崩壊させても貢献する事が「善」であるとされてきた。

しかし、人は孤独では生きられない。そもそも家庭がなければ、そして両親がいなければ、この世に生を受けることも出来ない。生まれるとすぐに親の胸に抱かれ、家族の愛を受けて成長する。社会に出ていくときには、教育を受け、友人を作り尊敬する指導者にも出会い、人生の目的を見つけ、たくましく歩みだしていく。

すべてが目的通りに行くとは限らない。しかし、生まれて死ぬまで孤独では生きられない。それがこの世に生を受けた者の宿命である。そして、労働に従事し、時には苦痛に感じることがあっても、仲間たちとの連帯感で結ばれ、希望を持って生きるのであれば、苦難の道も耐えられるだろう。そして

二つの幸福論

森 建司

愛する人と巡り合い、愛情に裏付けされた家族が増えていけば、それこそが人の幸せの本来の姿と言うべきである。

たとえば、農業は肉体労働もあり、高収入が保証されているのでもない。しかも作業は均一でなくいろいろな場面に多くの手間を必要とする。以前は三世代の家族が協力してその農作業を

こなしてきた。経験の豊かな老人の仕事、力仕事の壮年の仕事、子供に出来るささやかな手伝い。まさに三世代が同居して力を合わせれば、そして、その仕事に愛着を持って協力し合えば、農業も幸福を実現する立派な職業だったのだ。

グローバル化する時代に海外に赴任し、また子供たちもそれぞれ就職をして各地に散らばり、それぞれが所帯をもつて別居する生活は、いかに高収入を得る為とはいえ幸福な暮らし方とは言えないだろう。

先祖から受け継いだ住み慣れた地域に住み、地域の経済社会に働き貢献して、子孫に伝えていく、そのような役割を果たすことが、本来の幸せの姿であると思う。地域をこえ、さらには国境を越えて世界に進出する、「右肩上がり」の企業に働き高収入を得るだけでなく、幸福を保証してくれるのではない。現在では、それを人生の目標として努力している人もいるだろうが、やがてそうではないことに気付くことになるのではないだろうか。



佐和 隆光

滋賀大学学長



森 建司

循環型社会システム研究所 代表

●対談

〈 絆「町づくり」— ① 〉

持続可能性を 実現するために

グローバル社会の中で「コンパクトシティ」を考える

90年代に入って本格化したグローバリゼーションと、日本が陥ったバブル後遺症。失われた20年の間に、私たちが失ったものは何なのか。滋賀大学学長の佐和隆光さんにお話をうかがいながら、この20年を振り返るとともに、持続可能社会の実現に向けた新たな概念について、考えてみたいと思います。

■ 滋賀大学 彦根キャンパス

■ 2010年10月

グローバルゼーションと バブル崩壊

佐和 グローバリゼーションという言葉をご存知だと思いますが、意外と知られていないのは、このグローバリゼーションという言葉は、1990年より以前に編纂された英英辞典の中には登場しません。では、なぜ90年代に入ってから、この言葉が広く使われ始め、今や、政治や経済を語る際に、なくてはならない言葉になったのか。理由は単純明快です。グローバリゼーションという言葉が意味する現象が、90年代に入ってから相次いで起きたからです。森 日本では一般にグローバル化と訳しますが、インターネットなどを利用する人には、生活実感に即した言葉だと言えますよね。

佐和 ええ。情報、ヒト、モノ、カネの国境を越えた地球規模の動きが、90年代に入ってから急激に進展しました。かつて経験したことのないほど高速、安価かつ大量の移動が可能となったのです。なぜそうなったのか、理由の一

つは、1991年12月のソビエト連邦解体と、それに先立つベルリンの壁崩壊（1989年11月）により、東西を隔てる壁が名実ともになくなったため、東西の往来が自由になったことが挙げられます。もう一つの理由として、情報通信技術の進歩により、カネと情報を送受信するコストがほぼゼロになったことが挙げられます。加えて90年代前半は、石油価格が比較的安定していましたから、ヒトとモノを運ぶコストが、往年に比べれば相対的に安価になりました。

森 昔とは雲泥の感がありますね。

佐和 私が初めてアメリカに行ったのは1965年のことでしたが、その時の往復運賃は、当時の大卒の新入社員の人収にほぼ匹敵するほど高かった。1ドルが360円の固定為替レートの時代でしたから。

森 しかし、経済人として思うのですが、日本はグローバリゼーション、あるいはグローバル経済の恩恵というものを授かっているのでしょうか。

佐和 グローバリゼーションの結果、

ヒトの往来は頻繁になりましたが、いかにせん日本では1991年にバブル経済が崩壊し、以来、この方、経済は停滞したままといえます。80年代のバブル期の頃、東京には世界の先進諸国や、中国などの新興国の金融機関がどンドン進出し、東京をニューヨークやロンドン並みの国際金融都市にしようとする動きが見られました。しかし、バブル崩壊後、日本経済の成長にはブレーキがかかりました。1995年と2008年の名目GDPがいずれも四百九十数兆円で、兆の位で若干の差はあるものの、この13年間名目成長率はほぼゼロだったのです。大袈裟に言えば、日本という国は諸外国から見てもはや魅力的な国ではなくなり、国際政治の場でも発言力が低下してしまいました。森 ひとところ国際社会における日本の学力低下が話題になりましたね。これも日本の国際競争力に直結した問題だと思ふのですが。

佐和 2010年度のノーベル化学賞に2人の日本人化学者が選ばれましたが（※ほか米国人化学者1名）、受賞の

対象となったのは、お二人の30年前の業績ですから、今現在、日本で化学という学問が隆盛期にあるわけではありません。また、日本の大学で学ぶ外国人留学生の大半はアジア地域からの学生です。中でも一番数が多いのは中国人留学生ですが、中国人学生の留学先の第一志望はアメリカです。中国、そして

特に韓国では、アメリカの博士号（PhD）が非常に重んじられ、昔の科挙に合格したのと同じくらいの値打ちがあるそうです。他方、日本の博士号は軽んじられ、韓国では日本の大学の博士号を取得しても就職に役立たないそうです。森 學術に関して、国際的な評価でも日本はもうアジアナンバーワンではな

いのですか。

佐和 残念ながら、英国の教育専門誌T H Eが今年9月に発表した2010年版「世界の大学ランキング」によると、日本の大学は東京大学（26位）、京都大学（57位）など5校が200位の中にランクインしていますが、東京大学はアジアナンバーワンの座を香港大学（21位）に奪われました。さらに昨年は、11校がランクインしましたが、今年はそのうち6校がランキング外となり、ランキング入りの大学の数でも中国の6校に追い抜かれました。その他、国際的な専門誌に掲載される日本人の論文のシェアは、国立大学が法人化された2004年度以降、急降下しており、逆に中国が急上昇しています。

森 それは学問に投資される国の予算が少ないためですか。

佐和 日本の国の学術研究に対する予算は極端に少なく、過去10年間でまったく伸びていないのが現状です。日本ではわずか11倍、中国は42倍ですから。中国に追い上げられて大変だと叫ぶだけで、政府は予算を増やそうとはしな

〈町づくり - ①〉

いのです。

森 日本はある意味、グローバル化に向いていないのでしょうか。

佐和 先ほどの論文のシエアについて話しましたが、中国の追い上げにより日本のシエアが低下しているとも言えるのですが、外交力についても日本のレベルは極めて低いのに対し、中国は



日本について、真剣に語る佐和氏(左)と森氏(右)

外交上手で、したたかでもあります。私と思うに、中国や韓国はグローバルな市場経済化の進展に上手く適応して、様々な分野で上昇気流に乗った。しかし日本の人も企業も、実のところ、市場経済への適応力において見劣りがします。何よりも競争が嫌いなのが日本人の特性ではないかと思えます。

森 それは企業経営者として、わかる気がします。

石油資源の枯渇で、 変わりゆく社会

森 この先、一度グローバル化したものが元に戻るとは考えにくいのですが、持続可能社会とグローバルゼーションというのは、どのような形でバランスをとるものなのでしょう。

佐和 日本は石油、石炭、天然ガスのほとんどを輸入に依存していますし、食糧についても同じことがいえます。その意味で、日本はグローバル化しているわけですが、資源と食糧の輸入依存度が高いことは、持続可能性において劣ることを意味するのではないのでしょうか。森 もう少し国として自立できないものでしょうか。

佐和 パリに本部のある国際エネルギー機関(IEA)は、2030年には原油価格が1バレル(約159リットル)200ドルを越えるだろうと予測しています。理由は明快で、中国やインド

におけるモーターゼーションが急進展し、ガソリンや軽油の需要が急増するためです。しかし、その一方で、同じ2030年頃までに、ガソリンで走る乗用車はほとんどなくなり、乗用車は電気車で走っているだろうとの予測もあります。

森 先進国と新興国で時間差はあるものの、ガソリンで走る車は地球上から次第に消えようとしているのですね。

佐和 車は電気で走ることができたら、原油価格の高騰は何のそのですが、問題は飛行機や貨物船です。飛行機や貨物船を運航させる代替エネルギーがないのだとすれば、20年後にはヒトやモノの輸送費がとて高くなるに違いありません。通信衛星などを利用してテレビ会議ができますから、ヒトは移動しなくて済むかもしれませんが、モノはそうはいきません。特に主要食糧である穀物のほとんどを輸入に頼っている日本では、輸送コストの上昇に伴い、穀物の値段が上昇することは確実と言っていていいでしょうね。

森 日本は、ただその時を待つしかない



農業回復する日本へ（森氏）

いのでしょうか。

佐和 いえ、私はそうした変化に備えて、日本の農業が立ち直るのではないかと考えています。現在、日本の農業の国際競争力が乏しいのは価格面で対抗できないからです。しかし、輸入品には輸送費が上乘せされますから、運賃が高騰すれば、事態は一変するはずです。他方、国内で自動車を組み立てて海外に輸出するような製造業にとっては、輸送コストの上昇は大打撃とな

ります。その結果、日本の輸出型製造業は生産拠点の大部分を海外に移転せざるを得なくなりそうです。

森 第一次産業と第二次産業が逆転する可能性も大いにあるわけですね。

佐和 製造業の生産拠点が海外に移転すれば、確実に雇用が失われます。それまで製造業で働いていた労働者に農業の現場で働いてもらうようにしないと、失業率が途方もなく高まります。今のところ、農業は魅力的な産業ではありません。農業をいかにして魅力的な産業へと衣替えさせるか。ここに知恵を絞る必要があるのです。

森 農業は回復し、製造業は衰退する。ある意味、M・O・Jが理想とする社会が自然の成り行きで訪れるのだと、あっけないような気さえしますが（笑）。しかし、そこで心配なのは、そうなる日本は、先進国グループから脱落してしまうのではないかとということ

です。

佐和 製造業の先端的な技術のことを「ハイテク」といいますが、ほとんどのハイテクがいつの間にか中国や韓国

に追い付き追い越されているのが実状です。日本はエコ製品の分野が強いと言われますが、太陽光パネルの生産でも、一時はシェアが世界一でしたが、今は4位にまで後退しました。日本は科学技術立国だと言いながら、国は研究費を出し渋る。そういうことが災いして、技術の分野で日本は決して最先端を走っているわけではありません。

滋賀県の近未来—— コンパクトシティ実践の地 として

森 佐和さんは、20世紀をどのような世紀だったと思われませんか。

佐和 凄まじいまでの経済発展、成長の世紀だったと言えるでしょうね。経済成長の原動力となったのはイノベーションです。20世紀にイノベーションが相次いだのは、19世紀末に人類が石油と電力という二つのエネルギー源を手に入れたからです。したがって、20世紀は「電力・石油の世紀」だったとも言えますが、そのことの裏を返せば、

「二酸化炭素排出の世紀」だったとも言えるのではないのでしょうか。20世紀が終わらんとする1997年12月に地球温暖化防止京都會議が開かれ、京都會議書が採択されたのは非常に画期的なことだったと思います。

森 20世紀の幕引きのようでもありませんね。滋賀県は低炭素化に熱心に取り組んでいるのですが、何か有効な手立としてというのは考えられますか。

佐和 私はこの4月から、自宅のある



滋賀県はコンパクトシティにもってこい (佐和氏)

京都と職場のある彦根をしょっちゅう往復するようになったのですが、ふと思ったことがあります。大津市は別にして、J・R線沿いには、草津、守山、野洲、東近江、近江八幡、彦根、米原、長浜と、野洲と米原を除けば、人口10万から12万の都市、コンパクトシティが団子の串刺しのように連なるという、他ではあまり見られない特色を滋賀県は備えているのです。

森 琵琶湖という地理的特性のお陰です。

佐和 コンパクトシティは低炭素社会の実現に向けて、一つの理想状態だといえます。最大の課題は「交通」になります。都市間の交通はJ・R線を活用すればよい。都市内交通をどう変えていくかが最も重要なポイントになるのですが、市民が集まる公共施設等などの都市機能をなるべく街の中央に集め、移動のための交通手段は徒歩か自転車、子どもや高齢者のための路線バスに電気バスを使う。こうした都市モデルの構築に取り組む価値が充分にあると考えています。

森 住む場所も街の真ん中にとりま
すか。

佐和 そうですね。街のはずれに住ん
でいる人たちには、なるべく街の真ん
中に移ってもらうようにします。

森 実際、街のはずれに住んでいる人
の大部分は高齢者だとすると、移り住むことも悪くは
ないのかもしれない、とい
う気がします。

佐和 コンパクトシティの
実現に向けて、どこまで取
り組めるかは未知ではあり
ますが、滋賀県が低炭素化
に相応しい地域であること
は間違いありません。

森 M・O・Hがこれまで考
えてきたのは、過疎地域に
都心からの若者が定住し、
密と疎の極端な差を解消で
きないかというものだった
のですが、佐和さんが言わ
れるコンパクトシティの在
り方も非常に興味深いです
ね。20年後の社会を経済・



産学の両雄が未来を示す

エネルギー動向から見ると、また新鮮
な発見があるものだと、今日はそうい
うことを感じさせていただきました。
本日はお忙しい中、ありがとうございました。

佐和 ありがとうございます。

楽知者 光隆 佐和

● さわ たかみつ 1
942年和歌山県生ま
れ。1965年東京大
学経済学部卒業。京
大 大学経済研究所教授、
同所長、京都大学
院エネルギー科学研
究科教授、国立情報学
研究所副所長を経て20
06年立命館大学大
学政策科学研究科教授
・ 京都大学経済研究所
特任教授を併任。今年
4月、滋賀大学学長に
就任。2007年、紫
綬褒章受章。

勇気源
いの壁と打ち破れ
森 建司

● もりけんじ 1936年滋賀生まれ。
滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)
代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹
事、滋賀経済産業協会相談役など
著書『「吃音はなある」遊タイム出版、
『循環型社会入門』新風舎、『中小企業
にしかできない持続可能型社会の企業経
営』サンライズ出版。



笹田 昌孝

滋賀県立成人病センター
総長兼病院長



内藤 正明

琵琶湖環境科学研究センター
センター長



森 建司

循環型社会システム研究所
代表

いきいきと生活できる社会 ——人と医療にできること

持続可能社会の イメージに向かって——

持続可能という言葉のもと、人の暮らしを取り巻くさまざまな分野が変わろうとしています。未来は誰もが、いきいきと暮らすことのできる社会であるようにと、分野を越えた一つの願いがあります。医療の立場から近未来の社会像を描かれる医師の笹田昌孝さんを囲んで、科学者の内藤正明さんと森代表がお話をうかがいました。

- 滋賀県立成人病センター／守山市
- 2010年10月

□医療から見た近未来社会

森 これまでに内藤さんは、持続可能社会のイメージというものを具体的に描いてくれました。M・O・Hの誌面でも、自然共生型社会と高度技術型社会という二つのシナリオで近未来の社会



「医療や福祉との擦りあわせが…」(内藤氏) 「社会の方向性を…」(森氏)

像をお届けしました。M・O・Hとしては自然共生型社会を支持するわけですが、この社会の方向性をひとことというならば、どう表すことができるでしょうか。

内藤 先祖がえりということになるでしょう。ライフスタイルにしろ、社会の在り様にしろ、石油漬けでなかった昔に一旦戻るということです。しかし、イメージを描くというのは、仕事としては最初の一步であり、まだまだ描き切れていないのが現実です。特に医療や福祉の分野については、笹田さんのようなエキスパートとの意見の擦りあわせが必要だと感じています。

笹田 私も、内藤

さんがそれぞれのシナリオにより描かれた二つの社会像を拝見しましたが、これは科学技術が先祖がえりか、どちらかを選びなさいという極端なものではなく、双方のバランスというか、人にとってちょうど良い接点を見つめるべく知恵を絞りましたと、そういうことを言わんとされているのだと感じました。

内藤 まさにそのとおりです。私はよく、地球環境を人間の身体になぞらえるのですが、素人判断ですけれど、効果の高い薬ほど副作用が多くなるものだと。ですから、今の社会を例えるなら、この薬を飲んだらよく効いた。もつと飲めば、もつと身体に良いのではないか。そういう風な方向へ、特に科学技術の世界は進んでいった気がします。しかし、実際はそうではなくて、副作用の方がどんどん大きくなっていくのです。ですから、笹田さんがいわれたように、ちょうど良い接点をどこに見つけるか、まさに医者 の匙加減ではないでしょうか。

森 そこでお聞きしたいのですが、笹田さんは滋賀県における近未来地域

医療の到達像を描く、という大役も担っておられますね。それは、内藤さんが持続可能社会を描かれるのと重なる部分があるかと思うのですが、地域医療の到達像というのはどういったものなのでしょう。

笹田 まず医療人として、目の前に病氣



「医療の課題と社会像のバランスは…」(笹田氏)

の人がいれば、何とか治したいと思えます。患者さんやそのご家族も、なぐさめや同情より、的確な診断を当然、望まれるでしょう。我々もそれを提供するのが当たり前だと思っています。しかし、それで治らない場合について、それなら仕方がないでは間違っている、というのが我々の到達像なのです。

森 それは、仕方がないでは終わらせない、ということですか。

笹田 例えば胃がんの患者さんがいたとします。胃全摘をしたとして、医者も患者も「これで治った」と言いますね。なるほど胃がんそのものは切除しましたからそうかもしれませんが、その

患者さんにはもう胃が無いのです。つまり元の身体とは違う。当たり前じゃないかと思われるかもしれませんが、私はそうは思いません。胃をとったら、明日から食事はどうするのか。他にも、膀胱をとったら、明日から排泄はどうしたらいいのか。そういう風に考えると、今の医学は決して完成型ではないのです。要するに、人が元の姿に戻っていないのですから。特に私は、血液内科の医師として、これまで数多くの白血病患者さんを診てきました。昔こそ10人中10人までが入院して半年で亡くなるような病気でしたが、今は骨髓移植等の治療法により改善することができます。しかし、ある女性患者さんがこんなことを言われました。「でも先生、私は子どもは産めませんよね」。白血病は治ったとしても、放射線照射等により妊娠できない身体になってしまったという辛さ。これからの医療は、そういったものも含めた課題に対峙しなくてはならないのです。ですから、医学や医療にはまだまだ多くの課題があると

「二つの医療」 支えるのは私たちの自助力

森 ということは、我々は医療機関と手術や入院の時だけの「点」のおつきあいから、その前後にわたり「線」でおつきあいすることになるのでしょうか。

笹田 そのなのですが、私は「二つの医療」があるということを上げたいと思います。内藤さんは医者で加減と言われましたが、医者が病状に応じて加減をはかるようなことは、ほとんどできないのです。例えば、よく似た症状の二人の患者さんを診たとします。同じようにお話をし、同じ治療をしたとしても、患者さんの片方は回復して、片方は回復しないという結果になることの方が多のです。つまり、我々ができるのは患者さんが持っている本来の力をいかに支えるかで、本人の力で治すというのが基本になるからです。

内藤 なるほど。技術者は、環境問題という病を考える際、対症療法にのみ追われてきたという反省があります。水が汚れたら汚水浄化を、ゴミが発生し

たら焼却処理をと、そうした治療を続けてきました。しかし

本当に大切なのは、水を汚さない、ゴミを出さなくても暮らしていける社会の仕組みづくりで、元から治していこうとする根本療法に、立ち

返るべきだというのが私の思いです。

笹田 そうですね。コレステロールや血圧の高い患者さんが、薬を飲んで検査の数値が正常になったとします。これで治ったと思われるかもしれませんが、患者さんのお腹の出っぱり具合は相変わらずで、これこそまさに対症療法といえるでしょう。根本的に治ったというのは、やはり適度な運動や食事療法をして、薬を飲まなくても検査の結果が正常になった場合です。しかし、数値は同じように正常だとなると、対症療法の方が安易ですから、日本人はどちらかというと医師も含めてそちらの道を選びやすいのです。



「点→線のおつきあい」(森氏)

内藤 それも我々の世界に似ています。根本を正すような仕組みづくりに予算を投入しても、いまの時点で誰も儲かる人がいません。ですから、それよりも産業や経済活動を助けるための技術やシステム開発に予算が流れてしまうのです。

森 しかし、医療の場合はそうはいきませんよね。医師不足などの問題も抱えていますし。

笹田 ええ、今お話ししたのは、医療を使わなくても治るような病気についてです。もう一方には、運動や食事療法では絶対に治らない、癌のような病気があり、こちらは徹底して医療を使い倒すのだ

というぐらいの気持ちが必要れば、克服は難しいのです。

森 我々患者の側の意識としては、高血圧も癌もどちらも医療におまかせで、分けて考えるようなことはないですね。

笹田 実はそこを一番、県民の皆さんにもお伝えしたいのです。病氣というのは絶対に起こるものではなく、必ず何らかの前兆があります。身体は声なき声を発しているのですが、残念ながら今の日本人は鈍感になってしまっていて、その声を聞くことができません。それで不安だからと、医療機関に全部丸投げしてしまうのですが、本来、



「医者まかせ→医師との協働へ」(笹田氏)

自分の身体は自分が一番よく知っているもので、その感覚を退化させたままにしているのは正しいこととは言えないのです。

森 いうなれば「もったいない」ですね。

笹田 検査を受け、その数値でしか自分の身体をはかれないという人が増えていくのですが、例えば数値が正常だったから今夜は美味しい酒が飲めるとか、お腹いっぱい食べよう、なんていう経験はありませんか。これも、医療を信頼しているようでいて、実は単に丸



「技術開発→根本を正す」(内藤氏)

投げしているのと同じなのです。何でもよろしくお願いしますではきりがなく、救急車の不適切な利用が社会問題化していることなどが、それを如実に物語っていると思います。

森 では、適切な医療の使い方の一つにはもう少し我々の自助努力のようなものが必要になってくるということですね。

笹田 そうです。例えば自分でも朝晩の血圧を測ってみて、その数値を基に医師に相談をする。そんな協働作業ともいうべき関係が望ましいのではないのでしょうか。そうした自助のための知恵や注意を日本人は持つていくはずですよ。

それを活かし、医師と協働で健康的に生きるのだという、そんなスタンスを県民の皆さんに持つていただきたいと思うのです。各地で医師不足だといわれていますが、私は丸投げのスタンスが改善



されれば、現有のスタッフでしかるべき医療の体制を整えることが十分に可能だと思えます。協働作業というのは、共有の財産であるものをもっと大事にするということではないでしょうか。

内藤 そうですね。地球環境や石油資源についても、まったく同じことが言えると思います。

世代間のつながりで築く、私たちのユートピア

森 笹田さんは健康的に生活するということを、医療のみならず町づくり、人づくりといった点からも考えておられますね。やはり、そこまで包括的にならなければ、ということなのでしょう。

笹田 医療の最終の到達度というものを考えると、病院で過ごす時間はできるだけ短く、そして元の居場所や生活に戻れることが大事なのであって、そこまで見届けてこそはじめて、ちゃんとした医療といえるのだと思うのです。

日本では、80歳を越えた人のほとんどが、過去に癌を患った経験があるとい

う状況になりつつあります。このことから健康的な生活をして、安心して老いていくための「場」の必要性が浮かび上がりますが、元の居場所や生活に戻ろうとする本人と家族があつて、これを地元の開業医、訪問看護、薬剤師、介護サービスという多職種が一緒になって支える仕組みが必要だと言えます。お年寄りだけで健康的で安心な



『あんねいのまちづくり構想』に希望を見出す三氏

暮らしができるかという点、それは不可能なことでお年寄りだけのユートピアというのはあり得ないのです。

内藤 サービスや設備が充実しているだけでは駄目だと。

笹田 一番の問題は、心が豊かではないのです。安心して老いること以上に、自分が社会の役に立っているという実感や、居場所があるということのほう

が大事なのだと思います。そこで心の豊かさはかる基軸となるのは、自立しているということと、何か仕事をしている、つまり生産的であるということの大きく二つになろうかと思えます。仮に75歳以上の方の生活を考えますと、完全に生産的というのは難しいかもしれませんが、少しのサポートがあれば、自立して生活できるという人が少なくないはずです。そしてさらに、そういった社会構造を今から築かなければ、今後10年、20年先に日本の生活構造は維持できないのではないかと、というのが医療に携わる者の推測でもあります。

森 では、そのためにどういったことが必要になるのでしょうか。

笹田 私は、子どもの幸せ、老人の幸せと切り離して考えるのは困難だと思うのです。それぞれの世代単独で健康的な生活といっても、イメージしにくいと思われませんか。

森 世代間のつながりがあつてこそ、人はいきいきと暮らせるのではないのでしょうか。

笹田 お年寄りがいきいきと生活する

ために、何が必要かという点、それはこれまで培ってきた知恵です。知識ではなく知恵を次代のために役立てていくこと。そのための場が必要なのです。そしてまた、働き盛りの世代にとって、安心して働くために必要なものの一つは、子どもを鍵っ子にしないということだと思います。ですから、子どもたちが学校から家に帰ったとき、お年寄りが子どもたちを受けとめる存在となってくれるような、そんな風に三世代が共生してこそ、健康的な生活のイメージが描かれるのではないかと思います。

森 まさにM・O・Hが提唱する暮らしでもあります。私はさらに三世代同居だと言っているのですが、そうするとお年寄りにも子どもにもそれぞれの役割が生まれるのです。

持続可能社会—— イメージを一つにして

笹田 三世代の共生という考え方で、それが実現できる場を考えると、つま

りそれは町だということになると思いますが。自然もあり、ビジネスの場もあり、教育機関や文化芸術の要素もあり、加えて医療・福祉機関もある、そうしたすべてが揃った町づくりが必要になるのです。それには長い時間と、それぞれの分野の横断的な連携がなければ不可能でしょう。しかし、行き先がわかっていけるのなら、各分野がいつも顔を突き合わせている必要はないのです。

横断的な連携というものがイメージできる場を設け、例えば20年先の到達点を描いてそれを共有しながら、それぞれの分野ごとに歩を進める。とここで、ここで互いの進捗具合を確認し、調整を重ねることで、目標にだんだんと到達していけるのではないかと考えています。

内藤 とても素晴らしい考え方だと思います。20年後の社会像というと、なるべく多くの市民と共に、夢を語り合いましようというパターンになることが多いのですが、それとともに、各分野のエキスパートが集まって、専門的な情報を持ち寄りながら意見を出し合わ

ないと、夢が夢に終わってしまう可能性が高いと思うのです。

笹田 まさにそのとおりです。市民講座等の機会に、近未来型地域医療についてお話をするとき、私は20年後の社会を、今とはまったく違う社会だという風に考えてくださいと強く申し上げます。というのは、まったく違う社会をベースにして、そこから逆算して今やるべきことを考えなければ、現状の社会をベースにして20年後をシミュレートしたもので、全く違ったものになるからです。それぞれの分野において然るべき立場の人間が集まって、20年後に世の中をこんな方向にもっていければ、持続可能ではないかと。そのイメージを共有することがとても大事だと思いますね。

森 分野は違えど行き先は同じ。そう考えると、医療も経済も科学も、分野を越えて横断的な対話や研究、人材の育成など幾つもの道筋が見えてきそうです。本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

一同 ありがとうございます。

聴覚障害者の可能性を広げる 多彩な訓練事業



中村 正

社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会
びわこみみの里所長

職員とスタッフ、未来への挑戦

滋賀県守山市の住宅街の一角に建つ「びわこみみの里」。聴覚に障害を持つ人の生活訓練や就労を支援する施設だ。事業内容は、裁縫やトリミング、喫茶など多岐にわたる。聴覚障害者支援の専門性を持っている県内唯一の福祉サービス事業所であることから、県全域のみならず他府県からの通所者も多い。また、聴導犬の訓練に取り組む団体として、他の施設やメディアからも注目されている。開かれた施設づくりを目指すその思いを、取材した。

- 滋賀県
- 2010年10月
- 取材：荒木 美晴

「3つの事業」と「5つの仕事」

びわこみみの里には、聴覚障害者を中心に、さまざまな障害を持つ人が通している。その前身は、社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会により1996年に発足した無認可作業所「33企画」。6年間の施設づくり運動を経て、2007年4月に現在の場所に認可を受けた多機能型通所施設として事業を開始した。

生活訓練、就労移行、就労継続の3つの事業を行いながら、「トリミング班」「菓子班」「喫茶班」「縫製班」「エゴ班」にわかれて作業を行っている。いずれも、その技術や商品を一般に提供していることから、スタッフ（みみの里では通所者をこう呼ぶ）自身に「品質の悪い物は作らない」という高い意識が浸透している。

たとえば、犬のトリマー養成では、A級ライセンス所持の専門家による指導のもと、JKC（日本ケンネルクラブ）公認のトリマーC級・B級ライセンス取得に向けて勉強中で、一般のお客の

犬を預かり、実際にトリミングを行っている。今年11月にはJKC主催のトリミング競技会で、女性スタッフが昨年につづき、最優秀技術賞を受賞してB級ライセンスを取得。別の女性スタッフがC級の試験に合格するなど、その腕は折り紙つきだ。そんな彼らの真剣な表情から、仕事に対する真剣な思いが十分に伝わってくる。

全国に類をみない 聴導犬育成団体

びわこみみの里の聴導犬訓練は、調査研究の段階ではあるが、厚生労働省の平成21年度社会福祉推進事業として国の支援を受けて実施されている。障害を持つ人を補助する犬として、全国に盲導犬は1000頭、介助犬は50頭いるとされるが、聴導犬は26頭（平成22年11月現在）と非常に少ないのが現状だ。その理由として、聴覚障害者の団体（いわゆる当事者団体）や聴覚障害者施設などが、聴導犬の育成や普及に主体的・積極的に関わってこなかったことが考えられる。そこで、ドッグ

トリマー養成では、講師の指導のもと資格取得をめざして日々研修を行っている





2



1



5



4



3

① トレーナーとスタッフが手話で指示を確認する ② 盲聾者の補助犬訓練は全国でも初めてのことで、携帯電話が鳴っていることを知らせる訓練 ③ 聴覚障害者向けの犬のしつけ教室を開催 ④ 携帯電話でコミュニケーションをとるスタッフ(左)と支援員

さらに、視覚と聴覚に障害を持つ盲聾者のスタッフ2人も聴導犬の訓練に参加している。スタッフは全盲あるいは極端に視野が狭いため、トレーナーは普通の手話では教えきれない。そこで、スタッフの手を触って意思を伝える「触手話」で指導する。現在はまた、週に1度の訓練のみだが、盲聾者の補助

犬は、電話や目覚まし時計、玄関のインターホンなど「音」が鳴っていることを飼い主に知らせ、その場所まで誘導することが仕事だ。訓練では、「栗東ドッグスクール」(竜王町)のトレーナーらが講師となり、候補犬の一つひとつの動作を教えると同時に、聴覚障害者のスタッフに対して正しい指示の出し方を指導している。

ランを併設したドッグカフェの経営や、トリマー養成などの訓練事業など、開所当初から犬との関わりがあったみみの里で、聴導犬普及事業に取り組みことにしたのである。中村正所長は、「私たちのような聴覚障害者福祉に直接関わる」団体「が事業を担う意味は大きい」と話す。



⑥ ナチュラルな空間のカフェは犬連れOK ⑦ 菓子工房で焼き上げたバウムクーヘン ⑧ 手作りの(犬用)クッキーも販売 ⑨ みんなで受託作業も ⑩ 米袋の試作品です ⑪ ふくろうのアクセサリ ⑫ オリジナルエコバッグ ⑬ 大人気「steed」のバッグ

大好評のドッグカフェと 滋賀産バッグ

犬を訓練すること自体が全国で初めての取り組みであり、マニュアルづくりの基礎となることが期待されている。スタッフのなかには、訓練を通して積極性が生まれ、家庭訓練犬の資格を取得する犬の成長とともに自信をつける人も。また、指導しているトレーナー側にも、自然と手話を覚えるなどの変化が見えるという。「犬が育つ人が育つ」ということですね」と、中村所長は目を細める。

犬も一緒に入れる「dog cafe 2960」は、木のテーブルや椅子が配置され、落ち着いた空間。守山産の卵を使ったバウムクーヘンなどの菓子類や日替わりのカレーランチが好評で、調理や接客はすべてスタッフが行っている。注文はお客にメニューにある品名を指さしてもらったり、伝票を見せて確認するなどの工夫をうけている。

健常者は、「彼らが耳が聞こえないなら筆談すればいい」と思いがちである

が、実は文章が苦手な人も多いという。このカフェは、スタッフが一般のお客と触れ合う交流の場、勉強の場になっていくと同時に、お客に聴覚障害者について理解を深めてもらう場所として、重要な役割を担っているのである。

また、縫製事業のなかでとくに注目されているのが、栗東トレーニングセンターの馬の調教用のゼッケンを使用したバッグ作りだ。既番番号や個体番号をそのままデザインに活かし、「steed」というブランドでインターネット販売したところ、馬好きのファンをはじめ、全国から注文がくるようになった。中村所長は、「ブランドとして出している以上、いい加減なものは作れない。売れているから、スタッフの意識も自然と高くなります」と話す。その高い縫製技術を活かして、ノベルティグッズの作成や、滋賀の唐橋焼とコラボしたふくろうのブローチも作成。窯元の店で販売され、地元の人や観光客から好評を得ている。

●職員との絆、足きない向上心

施設を見学させてもらい、印象に残っているのは、スタッフの真剣で生き生きとした表情だ。出来ることを見つけて、得意分野で腕を磨き、就職したスタッフもいる。その努力を支えるのは職員やボランティアの方々であり、強い信頼があってこそそうした関係が成り立っているともよくわかった。



生き生きとした表情が印象的なスタッフと職員、トレーナーの皆さん

みみの里では、一般の見学を随時受け入れている。また、見学ツアーの提案も今後は積極的に行っていく予定とのことなので、ぜひ一度足を運んでもらいたい。彼らの取り組みから、私たちの普段の生活や仕事をより豊かにするヒントが得られるのではないだろうか。

新しい犬を育てる
中村 正

●なかむら まさし
社会福祉法人 滋賀県聴覚障害者福祉協会 びわこみみの里
1943年京都府生まれ。人生の大半を大津市で過ごす。
県立甲賀高校、県立聾話学校、県立北大津養護学校、県立草津養護学校で主に進路保障の仕事に従事する。

●社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会 びわこみみの里
滋賀県守山市水保町1-65-1
TEL. 0777-514-90078
FAX. 0777-58951-7144
<http://www.33nosato.jp/index.htm>

しなやか&パワフル、 女たちのまちづくり



片山 弘子

鈴鹿カルチャーステーション
理事／鈴鹿市



木田 薫

兵庫県南あわじ市社会教育委員
委員長／南あわじ市



三浦 美香

一般社団法人比良里山クラブ
代表理事／大津市

近畿圏アクティブウーマン座談会 ～実践からの学びをバネにして～

それぞれの地域で、まちづくりに活躍する女性たち。今回は、大津市をはじめ、三重県鈴鹿市、兵庫県南あわじ市から、三人の女性にお集まりいただき、これまでの活動からの発見、これから変えていきたいこと、社会に伝えたいメッセージなど、多彩な内容でお話いただきました。

- 進行／辻村琴美
- NPO循環共生社会システム研究所 京都事務所／京都市
- 2010年10月

”壁“は きつと乗り越えられる

辻村 これまでの主流は、男性主導型の町づくりだったと思うのですが、最近、そうした町づくりに疲れが目立つと思うのです。どうも行き詰まるというか。そこで本日は、女性の視点で考える町づくりについて、皆さんからいろいろお聞きしたいと思います。まず、どんな活動でも壁にぶつかることが必ずあると思うのですが、皆さんのところではいかがでしたか。

片山 鈴鹿カルチャーステーションのオープンに先立って、人や社会のあり

ようを研究していたメンバーとそれに協力する企業体が、2005年にそれまでの蓄積を株アズワンカンパニーとして打ち出し、人が主人公の会社運営をめざして活動するようになりました。

それ以後この5年で組織としての核も固まり、社会的な信用もついてきていたのです。そんな中、鈴鹿市の大手スーパー「鈴鹿ハンター」さんのご協力をいただき、スペースの一部、5000坪の土地を「街のはたけ公園」として活用させていただくことになったんです。そこは、目の前にはビルが立ち並び、後ろには地元でセントラルグリーンと呼ばれる田園地帯が広がる、ちょ

うど境界のような場所です。しかし、土地自体は痩せていますから、腐葉土でも入れようとなったのですが、それを買うのでは意味が無いし、遠くから調達するのも無駄が多いですよ。

辻村 近場から調達できれば幸いですよね。

片山 鈴鹿市は三重県内でも一番、農業が盛んなところで、鈴鹿サーキットが有名ですが、そのすぐそばには里山が広がっています。鈴鹿市が数年前に行った生態系調査でそのあたり一帯は重要生態系地域に指定されています。非常にのどかですが、人口が減少している地域でもあって、そこで私たちは、そのあたりの里山から枯れ葉や腐葉土をいただきながら整備をし、街のはたけ公園と循環させる仕組みを作りたいと思いました。

辻村 循環とはこういうことなんだよ、というこの上ない教材ですよ。

片山 それに、人の出入りが増えることで、地域の人に喜んでもらえるぐらいに考えていたのですが、しかし現実には、そうした新しいことを嫌がられる



「挑戦することが大好きなんです」左から片山氏、木田氏、辻村、三浦氏

保守的な地域もあったり、またせっかく自治会の理解があっても、土地が転売転売されて所有者が分からなくなっていたり…。

辻村 ご先祖様から受け継いだ土地だから、勝手はできないということなのでしようね。

片山 取り組みとしてはスタートからもたつきましたが、却ってそれで良かったということもあって、やはり人のつながりが広がり絆が出来ました。例えば地元自治会の区長さんが、何とか適当な里山はないかと熱心に探してくださったり、市役所の環境課の職員さんがアイデアを寄せてくださったたり、本当にいろんな応援をいただくようになりました。壁はあっても、一つ一つ実績を作っていくことで、何とか乗り越えられるのかなと思っていましたら、ある議員さんの紹介で、先日徳居町のある地主さんから無償で土地を借りられることになり、11月から使えるようになったんです。

辻村 頼もしいですね。鈴鹿カルチャーステーションさんは、コミュニケーション、



「鈴鹿のまちの縁側になれれば」片山氏

カルチャー、エコと三つの切り口で、それこそ語学講座から自然体験までメニユーの幅広さが凄いですね。
片山 利用者からの要望もどんどん出てくるので、とりあえずメニユーを増やそうということで、採算性などを考えると、出たところ勝負の感もあるので（笑）。鈴鹿市は大きく三つの地域に分かれていて、真ん中に田んぼを挟んで、旧と新の町域が形成されています。ステーションの辺りは新の地域

で、非常に若い家族が多いんです。子育てに忙しい、余暇にかけるお金の余裕はあまりないですね。ですから、そういうことも考慮しながら、ただの文化教室というのではなく、地域の人たちにとって縁側になるようなスペースを作ろうという発想なんです。

辻村 高齢化する地域が多い中、

珍しいですね。地域として、若さという可能性を秘めているわけですから、先が楽しみでもありますね。

これからは団塊世代よりも、アラフォーねらい！

三浦 そういう40歳前後の世代が、これからの活動の中核を担っていくと感じて

「ジェネレーションをこえて仲間になる」三浦氏



います。例えば、エルファーム比良の利用状況を見ていても、若いお母さん方の活躍が断然目立ちます。彼女たちはベビーバギーを押しながら、はたまた抱っこベルトスタイルで颯爽と畑に来るんです。上のお子さんもまだ就学前とかいう年齢です。「お兄ちゃん、水汲んできて」とか、指示出したりして。猿よけネットを持ち込んで、それをお父さんが組み立てて、「パパとお猿さんの知恵比べだね〜」なんて上手にのせてます。それに対して、ゴールデン

エイジのご夫婦層は、淡泊そのものです。たとえば、一度でも獣害に遭うと、簡単に畑作りをあきらめてしまいます。百戦錬磨、人生の荒波もたくさん乗り越えて来たというイメージがあるので意外です。こういう観察から、次へのヒントが見えて来たりしますね。

木田 世代間の価値観の違いだと思うのですが、例えば、私たちの世代が何かを始めようとした時、どうしても、ついこの前まで現役でバリバリ頑張っていたら、今まさに自分たちの仕事を終えようとしているような世代の方とはぶつかることが多々ありますよね。

三浦 確かに、何か新しい提案を投げたときなんか、まず否定から入るみたいなどころがありますね。たぶんご経験が豊かなぶん、こちらがどこまで分かっているのかつかめない。それで頼りなくて、危なっかしい思いが先に立つんでしょう。「三浦さん見てたらハラハラするわ〜」ってよく



「世代間の価値観を特色に」木田氏

言われます。(笑)

木田 この前、地元の若手農業者の会の皆さんとお話をさせていただいたんです。彼らはやる気満々なのですが、年配の農業者の方々とお話をしていると、その多くの方は、もう農業はだめだとか後継者は育たないだろうと、できない理由ばかりを探しているように思います。実はそれこそが、後継者の育成がうまくいかない原因の一つではないかと思えます。私は、いくつになっても、前を歩く世代の方々には、どんなに困難なことでも希

望を持っていてほしいし、若い人達の夢を育ててほしいと願っています。こうしたことはお役所の中でもみえることがありますね。

辻村 自発的な活動を通じて、行政と何らかの接触を持った際、(行政の)融通の利かさや消極的な態度に、不満を感じるという人は凄く多いと思うんです。また、若手の職員さんは乗り気なだけけれど、その上司が理解してくれないというケースも多そうですね。

三浦 70代になるとまた違って、頭が柔らかいというか、対処の仕方に柔軟性があるように感じます。いま私の両脇を固めてくれているのは、76歳と40歳の女性です。それでもジェネレーションギャップなんて感じた事ないし、いつも対等です。その中でお互いに尊重し合える関係で、すごくありがたいなって思います。

木田 世代間の価値観の違いは、それぞれに生きてきた時代背景の中にありますよね。

戦争を知っている世代と高度成長期をそのまま歩んできた世代とは、ずいぶん価値観も違うでしょうね。では、私たち40代あたりはどうなのでしょう？

今の社会情勢から考えると、決して明るい未来が待っているとも言えないですね。だけどいろんな意味で危機感を持って、何とかしようと頑張っている人はたくさんいます。まだまだ、発言権もあまりなかったりしますが、後に続く若い世代のみんなのためにも、柔軟な心と頭で「がんばれアラフォー世代」ですね。

三浦 私もそこが分かれ目だと思っています。何とかいい形でバトンタッチして欲しいと思います。退いた後は潔く、じっと見守るくらいの器が欲しいですね。絶対その方がカッコいい。人間関係が肝心ですよ。

市民と行政の“つなぎ手”を地域に

木田 先ほど片山さんが言われた問題点にしても、やはりNPOと行政の間

で、つなぎ手となるようなコーディネイターの存在が、地域にとつて必要なのではないでしょうか。実は私は今、自分がちやうどその立場ではないか、と思っ
ているんです。行政の人間ではないけれど行政側のいろいろな審議会などの委員を務めている。社会教育委員なんて、まちづくり“そのもの”ですからね。市民の代表であつて行政とも関わりがあるというような中間的な立場での役割を果たしながら、地域の中

中でつないでいくネットワークが必要なのかなと感じています。そうやって自分の立ち位置というのが見えてくると、行政との交渉ごとにしても、案外うまくいくんです。もし、私が片山さんのそばにいれば、今すぐにも市役所に掛け合つて……と思うのですが(笑)。
片山 そうですね。ただ、もたもたしているなかにも、いろいろな出会いがあつて、地域のつながりが生まれ始

めたかな、という気がするんです。残念ながら、木田さんほど迫力のある人はいないのですが(笑)。

三浦 スムーズに事が運ばなくても、試行錯誤するなかで磨かれるものもありますからね。それと、出会いはありがたい宝ものですね。普通に主婦だけしていたら、こんな膨大な出会いは不可能でした。中身も濃いし、いろんな可能性とかチャンスを連れて来てくれ



ます。私の場合はかなりあつかましいので、相手が望む望まないは二の次で、どんどんつながって行きます。(笑)

辻村 三浦さんのところも、応援してくださいるのは女性が多いのですか。

三浦 女性に限らずですが、私が一人であたふたしているのを、見るに見かねてという感じでしょうか。でも、実際に自分が汗をかかない限り、そうやって助けてくれる人は現れないというのが実感でもあります。「見る人は見ながらの毎日です。

若いファミリー層にも 大きな期待

辻村 先ほど、つなぎ手という言葉が上がりましたが、まさに町づくりにおけるキーワードだと思います。私は町づくりに、20代や30代をどんどん巻き込みたいと思っていますのですが、彼らの良いところは自然体で考え方が柔軟な点です。

三浦 それに環境や、自分たちのライ

フスタイルへの意識も高いですね。やはり学生時代にそうした教育を、普通に受けてきた世代なので、自分たちの子どもにも常識として伝えようとしていますよね。エルファーム比良の利用者さんなどは、まったく公園感覚です。お弁当持参で、子どもにも土いじりをさせて、琵琶湖を臨めるロケーションの良い場所を一日を楽しんで帰る。でも、今の若いパパやママたちが求めているのは、決して公園ではないんです。彼らの価値観はもっと自然で、もっと人間らしい空間。公園デビューではなく、いわば里山デビューなんですよ。

片山 私も同感です。大きな公園のように、自然観察のためのフィールドだとか、全てがお膳立てされているような場所は、案外と人が少ないように思います。里山のように、人なり自然なりとの関わりが持てて、自分なりのアク

「私たち地域のつなぎ手になってるかしら」



ションができるというのが求められているのではないのでしょうか。

三浦 もともと、エルファーム比良のアイデアは、獣害や高齢化によって山際の田んぼが耕作放棄地になってしまいう前に、何とかしたいというコンセプトから生まれました。年間使用料は3千円という破格値です。そこにシイタケ栽培やシソジュース作りなどのオプションメニューを組み込んで、四季折々の

里山体験ができますよというものです。この里山付きというのがミソで、他の市民農園には真似できない付加価値なんです。でも、獣害ももれなく付いて来るみたいな。そういう商品やサービスの背景にあるストーリーに興味を持つたり、価値観を共有してくださる方。農ブームという一過性のもではなくて、まさに共感してもらえるユーザーさんをこれから開拓していきたいと思っています。

伝えたいこと、残したいもの

辻村 これまでの町づくりは、観光客を呼ぼうとか、施設を作ろうとか、そういう類が多かったですよね。しかし、今お聞きしたように、地域の人たち自身が楽しく豊かに暮らすために何ができるだろうと、そういう視点に移りつつある印象を受けます。そのなかで、木田さんの地元・南あわじ市は、「淡路島全体として「あわじ環境未来島構想」があるように、地域再生を大きく展開しようとしていますね。

木田 島全体、人口が減少し、高齢化が進む中でどうやって生き残っていくかということが大きな課題です。たぶん片山さんや、三浦さんの地域にも同じように問題はあると思いますが、淡路島のような地方は深刻です。淡路島の玉ねぎが代表するように南あわじ市は、淡路島の中でも特に農業が盛んです。また「三年トラフグ」などで知られる漁業も大切な街の基幹産業です。一年に三毛作、四毛作をする農家も多く、農業技術は日本一、農協も日本一と、食の生産については豊かなところなんです。しかし、若い人はやはり農業を敬遠しますし、しかも農業だけでは食べていけないという問題を抱えています。

辻村 地域の危機感が高いんですね。

木田 そうですね。その上、先ほど三浦さんもおっしゃっていましたが、シカなどによる農作物への獣害が年々深刻化しています。そのことでまた、農業を営む意欲を奪われているのも事実です。最近では「田舎暮らし」を推進している効果もあってか、都会から若いご夫婦や、定年退職されたご夫婦が移

住してこれら、新規就農者となられるケースもありますが、食べていけるだけのレベルにはとても届きませんし、そんな簡単なものではないんです。

辻村 楽園ではないということですね。

木田 私が懸念しているのは、この先世界的には、食糧や水の不足、エネルギーの枯渇という危機が間近に迫っていることがはつきりしてきている中で、今後日本の農業は本当に生き残れるのだろうかということ。実は、淡路島の食糧自給率は一〇七%、南あわじ市にいたっては一七〇%と、本当に農業立国といえる街です。ただし、生産品目数などまだまだ見直す点はあるのですが。忘れてはならないのは、そうやって一生懸命に頑張る田舎の農業者の人たちがいるからこそ、都会の人もお米や野菜を食べられるんです。今、田舎の人たちが農業を放棄してしまつたら、ほとんどの食糧を輸入に頼らざるを得なくなります。ただ、世界中が食糧難になって、果たして日本が本当に食の輸入ができるのでしょうか？ そんな現実の中で、こんなに気候が温

暖で農業に適している南あわじ市でさえも、あと10年もすれば高齢化が進み農業に従事する人が半減してしまうのではないかと、というような危機的状況にあるのです。国もいろいろと農業支援策を考えているようですが、人材育成や安定した収入をどう保障していくかなどの根本からの見直しが必要ではないかと思えます。また、消費者側の価値観の問題なども大切ではないでしょうか。

辻村 木田さんは、20代の頃から地域の婦人会活動等を通じて、コミュニティづくりに関わってこられましたね。今、そうした旧来の組織の力が非常に弱まっていますが、どう感じられますか。

木田 そうですね、婦人会長も務めました。当時、既に婦人会は全国でも下火で、各地で潰れつつありました。私も会員同士のつながりを取り戻そうと頑張ったつもりでしたが、一旦壊れたものを修復するのは、なかなか難しいんです。特に若い人の場合、仲間同士ではつながれても、世代を超えたつながりは苦手な印象を受けます。実はこれ

から先の厳しい時代を切り抜けるカギは、地域の中でお互いに支えあい助け合うという、ぬくもりのあるコミュニティをどう築いていくなにかかっている。といっても過言ではないと思うのです。

辻村 年齢の差って、興味の差でもありますから、一つにまとまるには何らかの仕掛けが必要ですよ。

木田 そうですね。その仕掛けは何がいいのだろうと考えました。そこで、みんなが同じように困っていることから人が集まるのではないかと思いつき、県民交流広場の取り組みの柱に「シカなどによる野生動物の農業被害」を掲げてみました。

辻村 それは面白い発想ですね。

木田 これが私の人生を変えた(?)ほどの大切な取り組みになったのです。まず第一回目は、大学の先生を招いて、行政と地域住民の意見交換を図ったのですが、出てくるのは「行政は何をしているのか」「大学の先生は勉強ばかりしていたらいいというものではない」と文句ばかりです(笑)。私は最後に全体をまとめる立場だったので、

苦情を言うのが正しいのではない。それぞれの立場でできることがあるはずだ。それを追求するのが、この交流広場のやりたいことなのだと、そう言っている日は締め括りました。もう二度とやるものかと思いましたが、先生方から逆に、とにかく続けることが大事なのだと励まされて、そうしたお陰もあって、その後も何とか続けてこれたんです。振り返ってみれば、先のことは何も考えず、その時に大事だと思ったことに集中して取り組んできたように思います。自分の中には、これが大事だという気持ちしかないんです。でも、人を動かすのは、そうした信念のようなものではないでしょうか。真剣に何かをしたんだな、と相手に伝わった時に、人の気持ちって変わっていくんじゃないかと思えます。

三浦 私もそう思います。結局、信念が無ければ自分自身の意識も続かないですね。今は思いを持ち続けることが難しい時代ですが、ここが一番大切なポイントだと思います。これまで、あれこれいろんな活動をやってきましたが、

「一本筋が通っていればそれで善し」と思えるようになりました。そこさえブレなければOKですよ。

まちづくり↓環境↓人↓まちづくり。というスパイラル

木田 わたしは鹿対策に取り組むなか、実は自然環境そのものが大変なことになっている、それを知ったのが3年ほど前で、そこから環境に関心を持ちだしました。これは農業を守るためだけの問題ではないんですね。環境フォーラムを開催して、更に色々なことがわかったのですが、実は淡路島の周辺の方がどんどん荒れ出しているのです。今、私たちが山を守らなければ、海はますます荒れてしまう、これを知った時、循環の大切さを非常に感じました。そして、自然の恵みをいただきながら生きていくなかで、自分たちの生活スタイルを、いよいよ見つめ直す時が来ているのだと思います。

三浦 私も、比良に里帰りをする中で、里山の環境が変わっていく様を見て、

「これはアカン!」「今の自分に何ができるかな?」と考え、里山の保全活動に目を向けたのが始まりなので、木田さんの危機感はよくわかります。人が介入して維持されて来た里山の自然が、いまほとんど忘れられています。民が目を向け、手を入れるためにはどうすればいいのか。当然長いスパンでの取り組みにはなるのですが、いままですることを実行しなければ何も変わりません。もうそろそろ学んだり考えたりする段階は卒業し、みんなが行動を起こして欲しいと思います。それと、志を同じくする人たちが、手をつなぐこと。もう自分たちだけで満足している時代ではないのです。この取り組みは行政のお尻を叩いて、今すぐにでも取りかかりたいと思っています。

木田 環境を守るのも、実は地域のネットワークであったり、地域力だと思うので、私たちはそういうことを勉強したいんです。その中で、一番難しい

「信念って大事」三浦氏



と思うのは合意形成です。皆が「よし、これでいこう」と、合意するポイントは何なのか。これを追求していくことが大事だと痛感している部分もあります。最近、それで思うのは、地域の伝統的な神事祭礼や芸能など、そういうところに遡っていく必要もあると感じるのです。

木田 地域の力を一つにまとめるファクターとも考えられますものね。

木田 お祭りなんてまさにそれですよ。そこに地域の力を集約したり、全員が合意形成に至るためのとても大事な役割を果たしているでしょ。ですから、現代でもイベントというのはとても大事



「感受性って大事」片山氏、木田氏

なものだと思っんです。

片山 私もカルチャーステーションという形にしたのは、何か同じものを感じて、惹かれ集まった人同士が、顔を合わせて同じ空気を吸ってと、それを何度も繰り返すうちに、互いの生き方や暮らし方に触発されて、こんなこともできるのかと、自然に変わっていくような仕掛けを作りたかったです。木田さんや三浦さんのお話を聞いて、やはり女性には命のつながりというか、直接子どもを生む、生まないに関わらずですが、直感的に反応できる要素があるのではないかと思いました。私自身、若い頃に子どもを持つ母親として、例えば森永ヒ素ミルク中毒事件のように、直感的にこれ

はやばいと感じることがありました。個人の思想だとか存在は、社会の状況次第で危ういものになってしまいうし、大きく影響を受けます。そのなかで、やはり知性だとか心だとか、自分で養うことが大切になってくるんですね。

辻村 自分を大切にすることで、何が伝わりだし、菌車のように大きく回ります。女性の力って、そういうものかなと思いますね。

女性と男性、 違うからこそ面白い

三浦 最初に辻村さんが、男性主導型のまちづくりに疲れが見えると言われました。女性はこの先、子どもや孫の代が危ういことを本能の領域で感受していて、「何とかしなくては！守っていかなくては！」と、ヤバさと対峙しているわけです。男性はその点（本能の部分で）、希薄かもしれません。日常に追われて、余裕もないし。そこで役割分担です。動けるものが動く。考えられるものが考える。時間がない、

疲れてる人をいくら口説いてもダメでしょう。その代わり、「女のくせに」とか「女だてらに」とかいう目線はタブーですよ。違いをちゃんと承認してこそ、本当にいい関係が築かれるのですから。もうそんな化石みたいな男性は減びましたかしら?」

辻村 そこで男性の力をどう活かすか? 片山さんはどのようにされていますか。

片山 カルチャーステーションの運営には当然、男性の力も必要です。理念的にカルチャーステーションの方向性を出し企画を打ち続けたり、経理で一生懸命にお金がまわるように頑張ってくれて、お互いが助け合っていくわけです。

辻村 立場逆転の内助の功ですね。

片山 ええ。でも、そういう間柄がちゃんとあるからこそ、私たち女性の直感や確信が生かされるのだと、感謝しています。

木田 それは良い関係ができていますね。女性の直感を自分たちの活動の信念に据えたとしても、やはり対外的にそれを裏付ける理論や理念、何より経済

的、事務的に先を見越す力が必要となってきましたから、そこを男女の特性を生かしながら、協働していくということですよ。

辻村 私は本能派ですから、理屈優先、計画第一という男性的な能力をサポートしてもらわないと……(笑)。

三浦 逆に男性は、そういう取り組み方しかできないというのもあるんじゃないでしょうか。「三浦さん、次は何を企んでいるんですか?」なんて、事業戦略の部分聞かれることがよくあります。「将棋じゃあるまいし、いつもいつも次の一手を用意している訳がないでしょうに」って思いませんか? 私のやっていることは、なかなか男性の方には理解しづらいようです。なぜかという、すぐに結果が出ないから。(笑)

辻村 計画に沿うのではなく、現場の空気に沿う感じがほしいですよ。

片山 そうなんです。でも、私自身も注意しているのですが、直感だけでは駄目で、直感が本物かどうか、検証するような作業が必要だと思えます。これはいいという思い込みだけには、絶

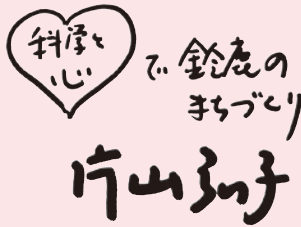
対にならないようにしないと。

木田 そのためにはやはり勉強でしょうね。私の地元の神代地区じんたいでも、大学の先生方を招いてサイエンスカフェを開催しています。20回近く継続して行っています。テーマは主に科学なんです。実のところ私は全く苦手で、極端にいえば、科学なんてこの世にいらないだろうと思うぐらい(笑)。でも、カフェを通じて、宇宙の話や科学技術の最先端、アインシュタインの相対性理論といった世界に触れるにつけ、こんなにも科学は大事なのかと考え直すようになりました。そして何よりも、いろいろな視点で物事を捉えることによって自分の中にある世界観というもの、ずいぶん広がっていくものです。参加者は、テーマによってさまざまですが、小学生から高齢者の方まで幅広いファンがいて結構、集まっていますね。

片山 やはり皆さん、学びたいんですよ。

木田 ええ。むずかしいことはわからなくても、世の中は今、こんなふうに行っているのだとか、こういうことが行われているのだとかは、知っておかな

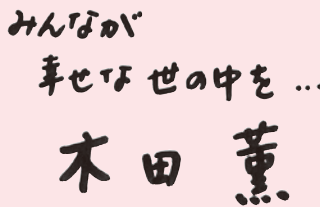
何度か足を運ぶうちに新しい出会いや
気づきを生み出す、そういう力がこの
スペースにはあると感じているんです
ね。ですから、若い人たちに経験が足り
ないのであれば、私たちの世代がサポ



●かたやま ひろ
こゝ内藤正明さ
んが率いるK-EE
SSの設立メンバー。循環共生の町
づくりをメンバー
と共に学んできた、
有志が鈴鹿市で
町づくりの実践
活動を開始。特に
2005年以降
活動が定着した
のに伴って、研究

活動と文化を街づくりの基盤とする活動を
模索する。2010年に「わが街の縁側
学び舎をつくらう」をキャッチフレーズに
「鈴鹿カルチャーステーション」を設立し、
茶道講師をしながら、里山と街のはたけ公
園をつなぐプロジェクトを担当。
*鈴鹿カルチャーステーション公式サイト
<http://www.scs-3.or.jp>

ートしながら、鈴鹿カルチャーステーシ
ョンを本当に豊かなコミュニケーション
づくりの起点にしていきたいですね。
辻村 まだまだお話を聞きたいの
ですが、本日はここまでということ。



●きだ かおる 保
育所勤務から退職
後、図書館、保育所
・幼稚園・小学校・
高校等で、読み聞か
せボランティア、あ
るいは講師として
活動を継続。平成
7年に結成した人
形劇団「わやん」
では代表を務め、こ
れまで島内外で2
00回以上の公演

を行う。また、くましろふれあい広場の活動
として、2年半前から地域の課題であるシ
カ等の農作物などへの被害対策に、地域住
民、多数の研究者達と共に取り組み、成果を
上げる。そのことがきっかけとなり、淡路島
内の環境問題にも目を向け、2010年春、
「環境フォーラムin淡路島」を自ら実行委
員長として企画、開催する。現在、淡路地域
ビジョン委員会委員長、南あわじ市社会教
育委員長、淡路地域社会教育委員会協議会
副委員長等を兼任。

今後もこのご縁を大切に、長くおつき
あいいただけますようお願い申し上げます。
ます。どうもありがとうございます。
一同 ありがとうございます。

出会うは

宝もの

三浦美香

●みづら みか フリーランスライターの
仕事と並行して、2003年、生まれ故郷
の滋賀県大津市南比良にて比良里山クラブ
を設立。2009年に法人化し、代表理事
に就任。京都・妙心寺月刊誌「花園」や、
古今書院「日本のシンジ垣」などにコラムを
掲載。

同クラブでは、体験型菜園セミナー「
アトミ(エルファーム)比良」の運営をほ
じめ、地域と連携した里山ビジネスを展開
中。その代表的な事業として2010年8
月には、自分たちの育てた赤シソを原材
料にしたシユースTeraPetite(ヒラペリ
ラ)を商品化し、市場デビュー実現。
*比良里山クラブ公式サイト...
<http://hira-satoyama.net>

〈インターナショナルメッセージ—独逸〉

訳せない言葉の中に 日本を知る



原 修子

外国語に日本語に直訳出来ない単語があるように、日本語にも外国語に訳するのに苦労する言葉がある。よくあげられる通訳泣かせの日本語に「初めまして」、「宜しくお願ひします」、「お世話になります」、「お疲れさま」、「ご苦労様」等がある。「勿体ない、おかげさま、ほどほど」も間違いないこの範疇に入るであろう。私にとつての外国語はドイツ語となるのだが、これらの単語を訳するのは難しい。言われた時の状況に合わせて、意味するところの説明となってしまう。直訳ではなく意訳であろうか。説明出来るということ、このような考え方がドイツ人の思考に全く無いものではないことを示しているが、しかし難しい。私の語学力不足もあるのだが、何か、どこかずれてしまうようなもどかしさを感じる事も度々ある。

文化の違いであろうかと、ここから文化論、宗教論を展開して行く事も出来るであろう。

私にとつて、この三つの言葉には人間に驕りを諫め、謙虚さを求めている考えが潜んでいるように思われる。そしてそれは人間がかかわる、人間をとりまく全ての分野に当てはまるものであろう。それを忘れた時、自分で自分の墓穴を掘っていることになってしまふように思われる。

私にとつてこれらの言葉は自分の生き方となって欲しい、それを生きたいと願っている言葉でもある。

原
修
子

● はら しゅうこ 徳島市出身。1997年よりドイツアウグスブルク市在住。國學院大学文学部哲学科及びアウグスブルク大学カトリック神学科卒業。職業、通訳。翻訳。



にぎわうまつり会場

ダンボールで 古代ムラをつくらう!!

in 大巾遺跡まつり (兵庫県播磨町)

■2010年11月6日
■レポート／上田淳子

あつち信長まつりは歴史を感じ戦国時代の衣装をまとった行列や火縄銃の銃砲が鳴り響くにぎやかなお祭りでした。そして、「ダンボール安土城築城」を間近で見て、大人も楽しそう、子どもたちも生き生きしてるなあ、って思いました。ひらめきました！できるんじゃないかと。ダンボールはどこにでもあるし、わが町も歴史を感じる古代弥生時代の遺跡公園での「大巾遺跡まつり」がある。楽しそうなことへの動きは早いものです。県立考古博物館職員、町役場の有志、子育て支援団体、民生委員、児童委員さんなどに声をかけ「ダンボールで古代ムラをつくらう」実行委員会が立ち上がりました。

【実施へGOまでの道のり】

まず、何をするのか、したいのかを説明するのに困りました。なんせ初めて挑戦するので、イメージしにくいのです。その際は「ダンボール安土城」の写真を見てもらってお城の変わりに「古代住居の竪穴住居」をつくって、その周りを子どもたちにマイハウスを造ってもらおうのだと……。最後は「ここにかくみんなで子どもたちと楽しみながら大きなダンボールハウスをつくりましょうか」と半ば強引に仲間になってもらいました。そして、まつり実行委員会へも説明し、イベントとして正式に認めていただきました。今思うと何をやるんだかはつきりしな



大巾遺跡まつりの案内チラシ



赤いチェックが古代住居の屋根、まわりは子どものマイホーム

いのによくOKをいただけたと、有難く
思います。

「さてさてダンボールを どうする？」

早速、実行委員会を開き今後のスケジ
ュールや方法を話しましたが、肝心なダ
ンボールをどうやってゲットするのか、
集めればいいやん、とそこは、いろいろ
な人脈のあるメンバーですから、直接集
めてくれたり、お願いしてくれたり、目
標に達成！でも子どもたちにこのイベン
トを知ってもらって、参加してもらいた
いなあとの思いがあつて、学校へ「ダンボ
ールを地域のセンターに持ってきてね」
と、収集場所に指定したコミュニティ
センターのご協力も得ながらチラシをつ
くり配布してもらったりもしました。
地域の人々が地域のために一緒にダン
ボールを集めることは、これからのまち
づくりへの夢が膨らむ、いい経験ができ
たと思いました。

「いよいよ古代ムラ建築！」

11月6日は秋晴れ、すばらしいお天気

に恵まれました。前日から用意した40
0個ほどのダンボールと住居の柱になる
紙管（短いものをテープで貼って長くし
ました）でまず6角形の古代竪穴住居つ
くりです。当日は明石高等専門学校の学
生をはじめ、竪穴住居復元プロジェクト
のメンバーも手伝って、難しい骨組みを
組み立てていきます。

一番高い柱は4メートルにもなり、また
6角形という形は安定させるのに時間が
かかりました。それでも完成した骨組み
は古代の作り方を忠実に再現したもの
です。古代人つてすごい！と感激しました。

そこからは、子どもたちが組み立てて
くれたダンボールを斜めの柱にそって積
んでいきます。8時30分から始めて14時
までかかって、ようやくダンボール巨大
古代住居完成！

みんなで力をあわせるとこんなことも
できるんだと感激していました。

「ダンボールやよいハウジング 大盛況！」

もう一つの企画、子どもたちが自分で
つくるマイハウスもメンバーのアイデア



- ①紙管をつなげてつくった柱の骨組み
- ②周りにダンボールの壁が登場
- ③屋根をつけてます…どっかの建築現場のよう
- ④播磨町のキャラクター「いせきくん、やよいちゃん」を屋根に乗って完成～!
- ⑤家族でマイホーム建築も完成。





わたしのおうちだよ、ピース!

から生まれました。受付開始からどんどん子どもたちがやってきてくれました。好きなダンボールとガムテープ、カッター（ポラントピアがついています）で思い思いの家を作っていきます。意外だったのが、パパやママが結構真剣に作っていたことです。次々に完成するマイホームでは、家具も作って中で食事したり、寝ころんだりとほんとうに楽しそうに遊んでくれました。それを見ていて、当日のポラントピア（総勢30名あまり）もやってよかったね、とこちらもうれしくなりました。

【破壊のすさまじさ】

楽しんだダンボールハウスも大きな古代住居ともお別れです。

「壊してもええで〜」の声に子どもたちがいつせいにダンボールめがけて押し寄せます。あつというまに……。その破壊力のすさまじさと歓声にびっくりしました。子どももって壊すことも好きなんだなあ。

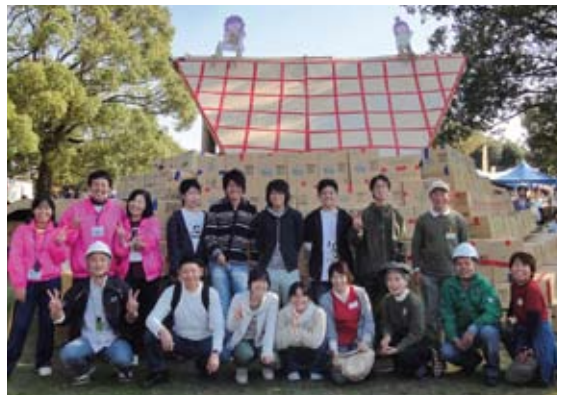
無残な姿になったダンボールですが、しっかりとリサイクルしました。

【ありがとう】

このイベントにかかわってくださった多くのみなさまに心より感謝いたします。みんなで考え行動すれば何でもできちゃいそうな気持ちになり、元気にもなりました。ただし……体はあちこち痛かったです（笑）

「来年もしてね」「きてよかった」との子どもたちの声に心がほっこりしました。

来年ももつともつと楽しもうねありがとうございました。



スタッフも集合思ったよりでかい…

ふゆ子

●うえだ じゅんこ 1963年愛媛県生まれ。兵庫県播磨町に在住。高校を卒業後、播磨町役場入庁、現在児童・社会福祉を担当。子どもたちの笑顔があふれるまち、いきいきと働ける職場や地域を目指し、日々悩みながら細々と活動中。自治体職員有志の会会員。



やまね館の外を照らすペットボトルの行燈

「秋の夜長を楽しむ夕べ」 開催しました。

日 時／平成22年9月25日(土)13:00~20:30

場 所／森林公園「くつきの森」やまね館 滋賀県高島市朽木麻生443

内 容／I部

● 講演&座談会

「里山林の植生とはたらきはどうかわってきたか

(くつきの森での長期生態系研究)」

講師:滋賀県立大学 環境生態学科 助教 籠谷泰行氏

● 散 策 ご講演いただいた籠谷先生とくつきの森を散策。

籠谷先生の研究されている現場にも

II部

● 「むつみ会の朽木里山料理夕食会」

朽木のおばちゃんたちの心のこもったお料理(バイキング形式)をアコーディオンの演奏と
軽妙なトークを聴きながら

アコーディオン演奏&トーク:米村博実氏(ニックネームトンボ)

主 催／NPO法人麻生里山センター

協 賛／高島森林体験学校、MOH通信

後 援／高島市

参 加／30名

料 金／I部:500円(千年樺の湧き水珈琲付き) II部 2,000円(夕食代込み)

レポート／NPO法人麻生里山センター 広報 上田康世



学生に戻った気分で講演を聴かれています？

9月25日「くつきの森」やまね館で講演&座談会として森の散策のⅠ部と朽木里山料理バイキング&アコーディオン演奏のⅡ部の二部構成で開催しました。

Ⅰ部の講演&座談会の講師にお招きしたのは、滋賀県立大学環境生態学科助教の籠谷泰行先生です。

「里山林の植生とはたらくはどうか変わってきたか〜くつきの森での長期生態系研究から〜」というテーマで講演していただきました。

色々なデータを見ながら、わかりやすくお話しいただき、みなさん今後の里山林について考えをめぐらしておられたのでは…と思います。

座談会では、千年椿

の湧き水で入れた珈琲と当職員、手作りの豆乳シフォンケーキを食べながらざつくばらんに籠谷先生とお話ししたり、質問などに答えていただきました。

座談会は尽きることがなさそうでしたが、くつきの森内に散策に出かけました。

案内は当センター長の中村哲です。木々の話や動物、森の話をみなさんに伝えながら散策は進みます。途中、籠谷先生の研究されている現場に立ち寄り、研究のお話を籠谷先生にさせていただきました。散策から帰ってきたところでⅡ部の終了です。

Ⅱ部の始まりは、里山バイキング料理を作っていたきました、朽木「むつみ会」のリーダー山本さんから料理の説明をしていただきました。今回は当センターの理事より、子鮎の天ぷらや鯖のへしこが提供されました。料理の説明を伺っている間に外は暗くなり、やまね館の周りややまね館までの道にペトボトルを利用した行燈の灯がともり、幻想的な夜を演出していました。おいしい料理を堪能した後は、お待ちかね



①「くつきの森」内の散策に出発 ②森の木々や動物の話を聞きます ③めずらしい里山料理がたくさん ④料理の説明をしていただきます ⑤アコーディオン演奏で会場がパッと明るい雰囲気になります

のアコーディオン演奏と軽妙トークの始まりです。奏者は神戸市にて、うたごえ喫茶「あかとんぼ」オーナーの米村博美さんです。米村さんは「くつきの森」が「朝日の森」だった頃の職員さんです。ニックネームはトンボさんです。軽快なトークと共に懐かしい唄をトンボさんの奏でるアコーディオンに合わせてみんなで唱いました。会場がひとつになった楽しい時間でした。

楽しい時間は、あっという間にすぎⅡ部も終わりの時間になり、みなさん行灯の灯で照らされた道を帰って行かれました。みなさんが帰られるときは雲に隠れていた月も雲から出て、きれいな姿を見せてくれました。秋の楽しいひとときを過ごしていただけたなら幸いです。

本の紹介

最近入手した、気になる本CD・DVD
をご紹介します。

BOOKS

琵琶湖のカルテ

科学者からのメッセージ



●著者／今関信子
●発行／文研出版

●価格／13000円＋税

●内容／琵琶湖が人間活動による環境の変化で調子をくずしつつある。「琵琶湖の医者」として見守ってきた科学者を通して見る。

江の生涯



●著者／福田千鶴
●発行／中公新書

●価格／8000円＋税

●内容／2011年NHK大河ドラマ『江』姫たちの戦国の主人公はこう生きた。大河ドラマと比較するといつて、興味が深まる。

浅井三姉妹を歩く



●編者／長浜市長浜城歴史博物館
●発行／サンライズ出版

●価格／15000円＋税

●内容／畑裕子、中井均、太田浩司が執筆。写真は辻村耕司、寿福滋。運命に翻弄された茶々・初・江。ゆかりの城跡と城下町。

比叡山武奈ヶ岳



●発行／集英社
●価格／5800円

●内容／週刊ふるさと百名山

23。天台密教の霊山パワーを授かる。世界遺産比叡山。

白洲正子「神と仏、自然への祈り」図録



●発行／滋賀県立近代美術館
●価格／2050円

●内容／滋賀の文化に憧憬が深く、

数々の美術品を世に紹介した白洲正子の生誕100年を記念した滋賀県立近代美術館の特別展で発行された図録。

石油ピーク後をどう生きるか、北海道



●著者／天野治
●発行／財団法人北海道地域総合振興機構
●価格／10000円

●内容／2010年3月に開催された「第9回フォーラ

ム2050」の著者の講演をベースに北海道のエネルギー改革に挑む。

エコプロダクツ・ディレクトリー2010



●発行／アジア生産性機構
●内容／環境に配慮した原料、部品、製品、サービスを1000件収録したデータブック。

新ストープがうちにきたくらしいにきる里山



●監修・編著／奥敬一
●発行／独立法人森林総合研究所関西支所

●内容／新ストープの魅力&効用がわかりやすい。里山エネルギー〜薪料理〜地域まで。

カハチャッカの エコ体験

今関 信子



イラスト：千田 満

高校生の時代からの友人が、退職をした。節目の旅行が計画され、「秘境カムチャッカ花物語」というネーミングのツアーを利用することになった。成田空港で、ウラジオストク航空のチャーター便に乗ると、三時間半ほどのフライトで、ペトロパブロフスク空港に着くと言つた。

三時間半はあっという間だった。心配していた天気が味方してくれたから、快適な空の旅を味わえた。

「ロシアだ、ロシアだ。」

足取り軽くタラップを降りたのに、入国手続きに時間がかかった。何もない空港で時間を持て余した。

ガイドは、小太りの中年の女性だった。分かりやすい日本語をしゃべる。

バスは一路ホテルへ、予定ではそうなっていた。が、途中でバスは止まった。

「アバチャ山がきれいです。カメラのある人は、写真を撮ったらどうでしょう。

こんなに美しく見えることは、めったにありません。」

促されてバスを降りると、雪を残した青い山が、その姿をおしげもなく現していた。空が透きとおって、洗いたてのガ

ラスのように輝いている。子どもの頃、秋の大運動会の日に見た空の色だ。

「日本晴れだわ。」

わたしがいったら、誰かがすべへ言った。

「カムチャッカ晴れです。」

翌日は、軍の払い下げの六輪駆動の自動車で、凸凹道をお花畑に向かった。

「この辺りは基地でしたから、民間の人たちは入れませんでした。だから、自然は自然のまま護られてきました。今は平和になって、民間の人たちも、自由に入れるようになりました。そして……。」

ガイドは、捨てられているペットボトルを指さした。観光客が捨てたモノだといい。

ベースキャンプに着く。野生のリスが、ちよろちよろ走っている。数え切れないほどたくさんいる。たれかがビスケットを砕いて放ると、小さな手でつまんで食べた。歓声をあげずにはいられないほど、かわい。

腹ごしらえをし、いよいよお花畑へ。その時、ガイドがビニール袋を持ち出した。

「これからお花畑の散策に出かけます

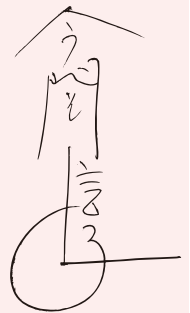
が、もしゴミがあったら、この袋にいれていただきたい。このごろ、モスクワやドイツ、アメリカなどからも、自然を求めて人々がやってきます。みんなが、エコに関心があるわけではありません。日本のみなさんは、環境保全に関心が高いときいています。お願いできますか。」

それで、ゴミを拾いながらの散策になった。みんな、喜んで協力しているように見えた。

もちろん、花畑は充分楽しめた。足下に可憐な花が、わんさか咲いているのだ。これが、キバナシヤクナゲ。これが、ハクサンチドリ。これが、コケモモ。わたしも、いくつか覚えて、花と親しくなった。

帰国のため空港へ向かう車の中で、ガイドが、一人一人に名前入りのカードをくれた。

「みなさん、ゴミを拾って下さってありがとうございました。これは、カムチャツカの守護神からの認定書です。豊かな自然の中で過ごした記憶を自然を大切にすみなさん、雪で覆われた火山の精霊がまもるでしょう。」



●いませきのがこ11942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987年、童心社『青少年読書感想文コンクール課題図書。』『さよならの日のねずみ花火』1995年、国土社『青少年読書感想文コンクール課題図書。』厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。『地雷の村で「寺子屋」づくり』2003年、PHP研究所など多数

M. Senda

●せんだ みつる11950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオアビロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。

山暮らしの子去月て日記の巻

作：オノムキ

オノムキの住む
朽木地は
人口16人。平均年齢55才。
平成22年10月11日、
人口が1人となり
平均年齢が約51才と
若返った！

その変革をもたらしたのは、
シンクロウ、オオ、

ソノ、オノムキ、
狩望のオノムキを
出産いたしました。
お産の兆候を感じた日の
夜中、自宅から町の
産院へ。

うまれたての赤ん坊を
見た、上の子たち。
想像とは
ちがったらしい。
おギヤス
ギョリやめた...

うなる程の陣痛から
わずか1時間程度で
と、超スピード出産。
5日後、町の産院から
山の自宅へ帰ってきた。

かわいいな。たなま...
シンクロウ...

お兄ちゃん、お姉ちゃんも
シンクロウ！
赤ん坊を大歓迎。
まず、8才のお兄ちゃん。
だこの車目白。

首がすわってなくて
いらいするから
しっかり
もて...

首がすわってなくて
いらいするから
しっかり
もて...

お母さん、もういいわ。
30秒後...

首がすわってなくて
いらいするから
しっかり
もて...

首がすわってなくて
いらいするから
しっかり
もて...

首がすわってなくて
いらいするから
しっかり
もて...

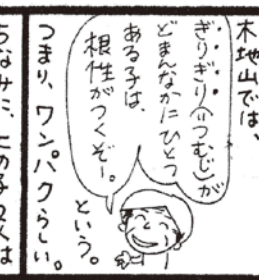
1分後。



思ひ出話にも花が咲く。



1人目... わからないうただけで大変だった記憶。



●オノミユキ(本名加藤みゆき) 1974年生まれ。滋賀県志賀町育ち。1997年に朽木村(現高島市)に移住。朽木の自然行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は2人の子どもを子育て中。

〈商家の家訓の話 第15回〉

釜屋小森久左衛門家の 歴代とお助け普請

末永 國紀



騎西町の釜屋小森久左衛門出店、
中央の大屋根棟がお助け普請による貯酒庫
（『大日本博覧図』明治25年〈1892〉）

関東平野は雄大である。その真ん中に位置する埼玉県東部の現地に立つと、その広さを実感できる。北西に上毛三山という、群馬県の名山がかすかに遠望できるだけであり、あとは一面の平野である。そのなかを荒川と利根川の二大水系がゆったりと流れている。関東平野というよりも、「坂東」という語感がピッタリくるような風景である。

この平野部に、近江商人、なかでも日野を出身地とする行商人の姿が見られるようになるのは、江戸中期の13世紀半ば頃からである。持下り商という行商で成功すると、要地を選んで出店を構え、彼らの多くは二大水系に沿って醸造業を営んだ。中井源左衛門・矢野新右衛門・矢尾喜兵衛・鈴木忠右衛門・横田庄右衛門・島崎利兵衛などである。

埼玉県騎西町（現、加須市）にある酒

造業（株）釜屋の初代小森新八もその一人である。新八は、蒲生郡日野町大谷の農家の次男として生れた。寛延年間（1748〜50）に持下り商いを開始し、中山道を経由して関東との間を往復した。

宝暦5年（1755）に利根川水系の武蔵国北埼玉郡騎西町の町場に釜屋新八の屋号で出店を開き、水油・陶器・鍋釜・質屋を商った。しかし新八は、明和2年（1765）に病死した。いまだ独身であったので、兄の久左衛門が近江から駆けつけて葬儀を営み、騎西の淨樂寺に葬った。

弟の跡式を調べた久左衛門は、自ら二代目として経営を引き継ぐことにした。明和5年に隣村の金兵衛から酒造場を5年間の契約で借り受け、酒造業を開始した。借料は1年に付き5両2分であった。翌年には、その3石の酒造株とともに、酒造場と酒造道具一式を32両で買い取った。越後杜氏による酒造業は順調に発展し、「力士」と命名された酒は、天明5年（1785）には酒造978石に達するほどに成長した。二代目は商才があったといえる。天明6年に隠居し、享和元年（1801）に76歳で没した。

三代目は、宝暦11年（1761）に日

野町大谷の木瀬利右衛門の次男に生れ、天明5年(1785)に二代目小森久左衛門の養子となった。三代目は、享和2年に行田町の与右衛門から酒造場を10年契約で借り入れて出店とし、関東の紅花を京都に上せる紅花商を開始するなど、家運の繁栄に貢献した。没年は文政7年(1824)、享年64。

子を亡くした三代目は、日野町木瀬忠右衛門の次男を養子に迎え、四代目久左衛門とした。四代目は、生来温厚にして利発であり、文人的素質に優れ、書道や茶道で頭角を現し、琴斎とも号する教養人であった。商売においても、天保4年(1833)に質部門を廃止し、醬油醸造業をはじめするなど商才を發揮した。

しかし、好事魔多しという出来事が生じた。天保5年2月19日に騎西町のほとんどを焼き尽くす火災に類焼し、釜屋は酒造庫1棟を残して店舗・倉庫・家財を焼失した。再建に苦心を重ねた四代目であったが、復興資金の欠乏におちいり、やむなく名主善兵衛を介して土地の代官所に資金融通を歎願し、御用達金300両の下付を受けることに成功した。外来商人に対するものとしては稀有な

待遇であった。このことは、釜屋が当時すでに地域にとって不可欠の存在となっていたことを物語っている。それは例えば、寛政13年(1801)春の騎西町の火災の罹災者10人が、釜屋に30両の助成金を要請したり、年不詳ながら地元の町場の生活難者者に釜屋が助成金として金6両3分と錢73貫600文を名主新井善兵衛に渡したりした文書が残っていることからいえることである。

店の再建を果した四代目は、天保8年12月に忍藩領の伊勢国三重郡大屋知村(現、四日市市)に酒造場を開いて出店とし、西沢源右衛門を支配人にして経営にあたらせるなど事業を拡張した。四代目は天保12年9月に57歳で没した。

後を継いだ五代目は、安政6年(1859)に45歳で若死にしたので、嘉永2年(1849)に日野町大谷に生まれた六代目が叔父栄治郎の後見を得て、後継した。慶応3年(1867)6月に京都大宮通り仏光寺で酒造業を買い取り、近江屋新兵衛と称した。

商売にとって困難な時期である幕末維新期を乗り切った釜屋は、明治19年(1886)に一大貯酒庫の建設にとりかかっ

た。それは、明治14年にはじまり5年間におよび松方デフレ政策による深刻な不況の影響が強く残っていた時代である。米麦・養蚕地帯であった騎西地方は、農産物の下落によって大打撃を受けていた。

釜屋は2月19日の地鎮祭の余興に、東京相撲の大関大達羽左衛門を招いて土俵入りを開催して近隣の人々の娯楽に供した。総ケヤキ造り、二階建て、建坪200坪の貯酒庫は6月4日に棟上げを迎え、大工などの工事関係者の雇用は51人に上り、祝いの祝儀として配った米銭は、103人におよんだ。不況時の起工であったため、難民救済の一助となり、この建築工事は、「釜屋のお助け普請」と呼ばれ、社会貢献として長く称えられた。

近江商人に学べ 末永國紀

●すえながくにとし1943年生れ。同志社大学経済学部教授。経済学博士。(財)近江商人郷土館館長。

著書『近代近江商人経営史論』(有斐閣)、『近江商人』(中公新書)、『近江商人入門』(サンライズ出版)、『日系力ナダ移民の社会史』(ミネルヴァ書房)

「日本」について学ぼう

その四

井上 昌幸

今回から、明治維新から現在までの日本の歴史について学んでいきたいと思います。

第二次大戦後、六十五年経った日本は政治、経済、社会において行き詰まりの状態にあります。その原因は種々あると思いますが、日本人が本来持っている「大和の心(思いやりの心)」が失われ、自分さえ良ければという個人主義の風潮が広がっていることも原因の一つではないかと思えます。

何故このようになってしまったのかということは、明治維新から現在までの日本の歴史について学ぶことにより、理解できるのではないでしょうか。前野徹氏著「新歴史の真実」及び渡部昇一氏著「渡部昇一の昭和史」を参考にしながら、これから次のような内容で説明していきます。

- 一 明治維新とは何だったのか
 - 二 日清戦争の意味
 - 三 日露戦争の意味
 - 四 第二次世界大戦(太平洋戦争ともいう)の真実
- (一) ツビエト連邦(現在はロシアのねらい)

- (二) アメリカのねらい
- (三) イギリスのねらい
- (四) 中国のねらい

(五) 日本はなぜ戦争に突入したのか

五 敗戦

六 敗戦後の日本

七 現在の日本の問題点

八 日本の歴史・伝統・文化

九 日本をよくしていくための課題

一 明治維新とは何だったのか

(一) 世界の植民地化時代

一五世紀(一四〇〇年代)後半〜一六世紀(一五〇〇年代)の初め頃から、世界は大航海時代になりました。

スペインはコロンブスが西の航路を進み、一四九二年にアメリカ大陸を発見しました。そしてスペインは中南米諸国を略奪して、メキシコのアステカ帝国を亡ぼし、更にペルーのインカ帝国を征服して、金銀財宝を持ち帰りました。

また一五七一年にはセブ島、ルソン島などを領土としてフィリピンと命名して、三三〇年もの間、植民地としました。

ポルトガルは東への航路を進み、喜望

峰を通りマレー半島の南端のマラッカに到達して、マラッカ王国を占領し、更にシナのマカオを奪いました。一五四三年にはポルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えました。そしてフランシスコ・ザビエルが一五四九年に鹿児島に上陸し、キリスト教の布教のため京都まで来ていました。彼らの目的はキリスト教の布教を隠れ蓑にして日本を植民地にすることにあったようです。

一七世紀にはオランダがインド洋航路を通ってジャワを侵略の拠点として、現在のインドネシア周辺を占領して、三三〇年の間植民地支配を続けました。

一八、十九世紀（一七〇〇～一八〇〇年代）になると、イギリスが台頭してきてスペイン艦隊やオランダに勝利して海上権を奪い、オーストラリア、ニュージーランド、インド、ビルマ、マレーシアを押さえ、さらにカナダ、南アフリカ、エジプトなど七つの海にまたがる広大な領土を支配しました。

アメリカ大陸はイギリスとフランスが二分して支配していましたが、一七七六年に独立してアメリカ合衆国になりました。

十九世紀に入り、フランス、イギリスなど多くの国がアフリカ大陸を侵略していき、現地人を労働力のため奴隷としてアメリカに売っていました。イギリスはエジプト、モロッコ、南アフリカ、ナイジェリアなど資源の豊富な地域を植民地にしました。

(二) 南アジア・アフリカの惨状

これまで述べてきましたように、十五から十九世紀にかけて、スペイン、ポルトガル、オランダ、イギリス、フランスなど白人が圧倒的な武力によって、東南アジア諸国やアフリカ大陸の有色人種を侵略して植民地化して、財宝、資源、香料などその国の産出物を略奪していったため、現地人は飢餓と貧困及び搾取の三重苦に苦しみ続けました。更にアフリカからは労働力として多くの黒人がアメリカに強制的に運ばれ、奴隷として過酷な労働を強いられました。

(三) 徳川幕府の鎖国政策

一五四九年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸しました。名目はキリスト教の布教ですが、アジア侵略の密命を

帯びていました。豊臣秀吉は一五八七年、島津氏を討伐するために九州を訪れた時、長崎の寺院がキリスト教徒により焼き討ちされた事実を知り、「バテレン（神父）追放令」を発した。徳川家康も、秀吉と同じくキリスト教に危険な臭いを嗅ぎ取り、宣教師やキリスト教徒を弾圧しました。そして十七世紀はじめに来航したオランダやイギリスとの貿易を平戸の商館に限り許可します。

一六三七年にキリシタンが天草四郎を首領として大規模な反乱を九州の島原で起こしました。これを契機にキリスト教の取り締まりを強化しました。一六三九年にはポルトガル船の来航を禁止して、オランダ人の商館も長崎の出島に移し統制を強化しました。

井上 昌幸

●いのうえ まさゆき 1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21(滋賀県)ニアテクニカルエソジニアリングパートナーズ企業組合専務理事、関西師友協会生活学塾講師、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人

〈環人会〉その1.大阪環の会報告 地域のお立ち寄りところ ——新道パトリ

(大阪市東成区大今里)

9月18日、住みよいまち&絆研主催(横関万貴子運営委員がナビゲート)の大阪環の会で大阪市東成区にある新道パトリを見学した。独居老人が多く暮らす下町情緒あふれる町で、高齢者と共に生きる終の住処となる地域を創ろうとしている。

◆報告 / 奥野 修(住みよいまち&絆研究所)

新道パトリの誕生

東成区の人口は約7万9千人。高齢化率は23.0%と、市平均の22.5%よりやや高い(2009年10月現在の推計人口)が、新道パトリ周辺の今里地区ではさらに高く独居老人は約5600人と いわれる。

地元で開業医の中村正廣さんは、2000年7月に自身のクリニックに隣接した所に「ライフ&シニアハウス縁橋」という高齢者マンションを開設した。

「私たちの仕事は治すんじゃなくて、ずっと病気と続けて付合っていくということなんです。高齢化に伴う病気(高血圧や糖尿病)は治るといえることはない。いかに最後までやっていけるか。本人が納得して死んでいけるようなまちづくりが必要なんです」

日本は、超高齢社会に突入する。その中で認知症のお年寄りがますます増えていく。しかし、これまで精神病患者を隔離してきたわが国では、認知症患者を地域でどうやって看るかが大きな課題となっている。介護する側の方にもその準備が

出来ていない。

そのような中、中村さんは地元の町会長岡本秀男さんらと「介護・住まい・防災ネットワーク」を立ち上げ、高齢者と日々接し、認知症の早期発見につなげる拠点施設を企画。大阪市の提案型高齢者の地域交流拠点づくり事業に採択され今年6月1日、新道商店街内の空店舗(元帽子屋さん)をお借りし新道パトリをオープンさせた。

パトリとは、英語で「愛郷心」という意味。地域交流サロンに育てたいという思いから命名された。1階は喫茶スペースを設け、コーヒー(200円)や地元小学生がデザインした「街道焼」を並べる。ボランティアが常駐し、訪れたお年寄りの話し相手になる。トイレは車椅子でも使えるバリアフリートイレでシャワー付である。2階は訪問介護・ヘルパーステーションが入れるようになっていく。

育まれる絆

私たちが訪れたときは、丁度「歌声喫茶」の最中。ダークおじさんこと筒井幹夫さんの指導で、目の前の歌詞ボードを



歌声喫茶

奈良街道フォーラムのチラシ(左)
まち&絆通信(右)



見ながら参加者30人程が秋の歌をいっぱい歌っていた。歌いながら、泣きばなしのおばあちゃんもいる。

「人前で泣ける環境がここにはあり、心がほぐれている証拠です。設計者の案で、蛍光灯をつけず明るすぎない照明も効果を発揮していると思います」(中村正廣さん)

パトリでは、歌声喫茶の他、ふれあいコンサート、お話会、落語寄席等の文化イベントや医療セミナー、司法書士による暮らしの相談(相続、後見人制度、賃貸契約、借金等)等を多彩に開催している。パトリの運営は、介護・住まい・防災ネットワークのメンバーと登録ボランティア約30名で進めているが、資金面は大変という。先ほどの行政からの補助金はハードのみで、ソフト事業は手前で作らなければいけない。

高齢者と共に生きる終の住処に

「沖繩の結が世界で注目されています。少し若いおばあちゃんが、自分の家に多くのお年寄りを呼んで一日、お茶を飲んだり、お話して過ごす。一種のデイ



(上) 環の会風景 (パトリにて) (右下) 中村さんと岡本さん (下左) 新道パトリ

サービスです。これが長寿の秘訣といわれています。パトリでも、お年寄りをみんなで見てください。町内が主人公になって見ていくしかないのです。お茶を飲みながら夕方になったらそろそろ帰ろうかっていうような」と中村正廣さんはパトリの将来を次のようにも構想する。

『将来的には身近なところの長屋を改造し小規模多機能施設のようなパトリ2号館、3号館を作れたら。介護する側も孤立化するのではなくて、24時間これまで介護していた方々が、ヘルパーの資格を取り、ワーカーズ組織を作って皆でお年寄りを看るような町にしていく。まちがいい雰囲気になりましたねと言われるようなまちを皆で作っていききたいんです』

新道パトリの取組は、全国で抱える共通の悩みでもある。道は一筋縄ではないが、未来に繋がる道である。

(本文は、住みよいまち&絆通信VOL.2から抜粋したものです。)

〈環人会〉その2. 環人会ツアーVol.14 寺内町は 街と人のミュージアム



寺内町 (じないまち) の、いらかが美しいチラシ

- ◆日時 / 10月23日(土) 11:20~17:30
- ◆場所 / 富田林寺内町
- ◆集合 / 大阪府近鉄富田林駅南口/市第三駐車場
- ◆参加費 / 1200円(実費) 昼食代+杉山家入場料込
- ◆案内人 / 富田林市役所市長公室 政策推進課 参事 北山 泰史、横関万貴子(近江環人)
- ◆報告 / 吉本 智

『なぜ、20年以上この寺内町にこだわり町づくりをしているのですか?』

案内人の北山泰史さんに質問しました。

「私 here が日本で一番スゴイ町だと思っています。だからやり続けるのです」

この言葉に私は、この人はタダものではないと感じました。

富田林のスーパー公務員こと、富田林市役所の北山泰史さんの案内で、大阪府で唯一の重要伝統的建物保存群地区に選定されている富田林寺内町を歩いてきました。

富田林と聞いて、思い浮かべるのは世界一といわれている花火大会や高校野球の常連校、PL学園がある町としてではないでしょうか?しかしこの地区にこんな素晴らしい景観や町並みが保全されているとは知りませんでした。

案内役の北山さんは約20年以上前から寺内町の町づくりに携わっています。公務員として寺内町に関わることになり、まず自分を知ってもらうこと、また自分もこの町を知るために、すべてのお宅(約500世帯)への個別訪問と道の清掃活動から始められました。今では、住民が住まいの力を預けるといいうくら

い、寺内町の皆さんに信頼されている、まさにスーパー公務員。

まずは、公開されている民家のひとつ「勝間家」へ。ここは町のボランティアの皆さんが運営されています。茶室からは天気がいいと金剛山が見えるそうです。大阪府知事もここを訪れ、「飛騨高山よりいい資源がこの町にある」とコメントされたそうです。

続いて「じない市」活動の拠点 陶工房 飛鳥さんへ。「じない市」は月に一度イベントを行い町の活性化を担っておられます。9月からは「じない散歩」として展開し町づくりの企画をされています。

続いて町の中心地である「興正寺別院」へ。寺内町は戦国時代にできた町で、道は「あてまげ」といって半間ずらし、見通せないようにしたり、土塁を設けるなどした宗教都市。お寺の内部には狩野派の襖絵などもあり、当時の繁栄を映し出していました。このお寺の前の道は「日本の道100選」に選ばれました。

昼食には、近江環人の仲間である横関邸へお邪魔しました。住居兼建築設計事務所として今年新築したばかりの



①勝間家南庭より石川と竹林を望む ②陶工房飛鳥 ③興正寺別院 ④日本の道100選「城の門筋」 ⑤興正寺別院襖絵 (狩野派絵師作画)

お住まいです。草屋根にヒオトープ、それに新ストープが設置され、外観は高さや色合いを町並みにあわせ統一感に配慮された建築でした。

お昼にいただいたのは「LLPまちかつ」を介してできたお店、「里庭」のこだわり弁当です。歴史的な景観と佇まいが魅力的なこの地域ですが、高齢化や中心市街地の求心力低下で、空家が増加しており喫緊の問題になっているそうです。そこで、その空家の活用希望者の相談・サポート窓口、所有者との橋渡しなどの役割を担う組織として、「LLPまちかつ」は平成21年9月に設立されました。その最初のマッチングに成功した店舗がこの「里庭」さんとのこと（近江高島産の「ぎなこ」なども取り揃え）。

この12月にも「農とクラフトフェア」を開催し町屋にふさわしい商いを目指す方との出会いの場を計画されています。

そして重要文化財杉山家へ。1980年代に一般に売却されることを、文化財保護の観点から市が買収し解体修理を行いました。そして現在はこの町のシンボリックな佇まいを見せています。



7



8



9



6

第15回環人会現場研修会開催のお知らせ 彦根市内の石寺町や高宮町を巡回する予定です

- 日 時：2011年1月29日（土）14:00～17:00
- 集合場所：滋賀県立大学駐車場
- 幹 事：富永千弘

今回の研修会では彦根市高宮町で学生が蔵を改修してカフェを運営している「おとくら」や古民家「不破邸」を訪問し、改修なった石寺町の工コ民家を訪問。新年会をします。お楽しみに。



10

6 国重要文化財、杉山家住宅内部 7 同、玄関くぐり戸 8 同、和室 9 鴛鴦庵 10 交流館前で参加者記念撮影

●環境共生住宅工房（株）ベストハウス
http://besthouse.co/

●よしもととネット119003年京都生まれ。
環境共生住宅工房（株）ベストハウス勤務。
コミュニティ・アーキテクト（近江環
人）、ネットワーク、こなんの森木の家ねつ
と、こなんの森 新創くらが、栗東市街道
百年ファンクラブ参加。

みんなが幸せ
を本知

杉山家見学後、場所を交流館に移動して意見交換会へ。町づくりの経緯と保存整備の状況、今後の課題や展望など意見交換させていただきました。
公務員として町づくりに携わった後、今は一市民としてこの寺内町を盛り上げようと活動している北山さん、そして所有している空家を活用しこの町の活性化を願う佐藤さん、建築家という立場で町のデザインを考えている横関正人さん夫妻など、宝のような人材がこの町をこれからもっと素晴らしいものにしていくてくれると感じた一日でした。

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。2010年8月～12月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

彦根翔陽高校講演

日時：平成22年8月31日

- 主催：滋賀県立彦根翔陽高等学校
- 対象：全校生徒
- 目的：課外講義
- 会場：彦根文化プラザ
- 講師：同志社大学教授・末永國紀
- 参加：300名

琵琶湖周遊船の旅と交流会

- 日時：9月2日
- 主催：淡路社会教育委員会
- 会場：環境船めぐみ
- 講師：内藤正明、森建司
- 参加：30名

新エネルギー環境ビジネス基礎研修

- 日時：9月7日
- 主催：EENET
- 対象：会員
- 目的：研修
- 会場：EENET事務局
- 演題：自分の哲学をもつ競争倫理から共生倫理へ
- 講師：森建司
- 参加：11名

秋の夜長を楽しむタベ

- 日時：9月25日
- 主催：麻生里山センター
- 演題：里山林の植生とはたらき
- 講師：滋賀県立大学助教・籠合泰行
- 参加：45名

田舎暮らしフェスタ

- 日時：9月26日
- 主催：湖北田舎暮らしフェスタ実行委員会
- 目的：移り住むなら滋賀県湖北
- 会場：東草野小中学校
- 甲津原分校
- 演題：トークショー「しがの未来のエコトピア」

講師：森孝之、内藤正明 参加：80名



びわ湖環境ビジネスメッセセミナー

- 日時：10月21日
- 主催：EENET、M・O・H通信
- 会場：長浜ドームセミナー



ナー室

- 演題：持続可能社会を展望する「生活・産業・技術などの側面から」
- 講師：内藤正明、柴田正明、森建司
- 参加：80名

環境配慮型工場見学ビジネストリップ

- 日時：10月21日
- 主催：滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会
- 会場：新江州eプラザ
- 演題：「M・O・H通信」発行の原点
- 講師：森建司
- 参加：16名

地域活性化講座

- 日時：10月31日
- 主催：同志社大学ビジネス研究科
- 会場：同志社大学寒梅館
- 演題：環境倫理から共生倫理へ
- 講師：森建司
- 参加：45名

研修

- 日時：11月9日

主催：福井県プラスチック工業会

- 会場：新江州eプラザ
- 演題：持続可能社会における中小企業
- 講師：森建司
- 参加：12名

環境研修

- 日時：11月24日
- 主催：高島市エコライフ推進協議会
- 会場：新江州eプラザ
- 演題：環境倫理から共生倫理へ
- 講師：森建司
- 参加：30名

しなや華塾

- 日時：12月1日
- 主催：しが中小企業女性中央会
- 会場：Yes長浜
- 演題：長浜のまちづくり座談会 吉井茂人、川村政子、山本愉希江、辻村琴美
- 参加：40名

洛楽会研修

- 日時：12月3日
- 主催：洛楽会事務局

(富士通株式会社)

会場 新江州eプラザ

演題 持続可能社会に

おける中小企業

講師 森建司

参加 45名



淡海ごどもエコクラブ
活動交流会表彰式

日時 12月5日

事務局 琵琶湖博物館

会場 滋賀県立琵琶湖

博物館ホール

授与 嘉田由紀子

選考 篠原徹、山口昌

章、辻村琴美、21世紀

淡海ごども未来会議

議員

参加 100名

M・O・H ニュース

■びわ湖大緑日で薪割り体験 環人ネット
コミュニティーアキテクト近江環人ネットワ
ークが、びわ湖大緑日で「薪割り体験」を実
施。比良山の檜を斧で割りスカット、ストレ
ス発散。かまどで薪を燃やして火を楽しんだ。
伊吹山の米と泰山寺のさつまいもが差し入
れに。スタンプでよばれました。お芋がホカ
ホカで甘くて美味。お米はもっちり旨みがあ
って満足。ブルーベリーフィールズの岩田社
長(お芋)ありがとうございます。(12月5日)



■かんじきをつくろう、冬の山村体験
冬の山村での生活を体験してみませんか? 「か
んじき」を作って雪の上を歩いてもらん。
・場所/森林公園「くつきの森」やまね館
・日時/1月29日(土) 13:00~ 30日(日) 13:30
・参加費/10,000円てんくう温泉入浴代、宿
泊費、食事3回、おみやげ、かんじき代
・対象/15歳以上
・締切/1月20日
・申込/〒520-1451 滋賀県高島市朽木麻生
443番地 NPO法人麻生里山センター
☎0740-38-8099 FAX.0740-38-8012
E-mail: asosatoyama@zb.ztv.ne.jp

■描いてみよう! 2020年の暮らしと琵琶湖
・日時/1月10日13:00~16:00

- ・場所/コラボしが21大会議室
- ・内容/シンポジウムと分科会
- ・主催/滋賀県立環境科学研究センター
- ・申込/〒520-0104 大津市柳が崎5-34 滋賀
県立琵琶湖環境科学センター、佐藤
☎077-526-4802 FAX077-526-4803
E-mail: biwavision@gmail.com
- ・締切/1月4日

■はんのき

京都市上京区の住宅地にある古本屋。格子か
ら光が差す町屋の空間に文学や思想、芸術雑
誌、文庫本が並ぶ。
(京都凡語10月1日)

■エコ×婚活

自分らしくエコに婚活が静かに増加中。「エ
コ婚」「エコエディング」。ウェディングブ
ロデュースもエコなプランを取り入れている。
(宣伝会議2009. 7)

■グリーンツーリズム大賞2010

ブルーベリーフィールズ紀伊國屋が大賞

先駆的なグリーンツーリズム活動を顕彰する
「グリーンツーリズム大賞2010」の入賞が
決定。大津市のブルーベリーフィールズ紀伊
國屋(岩田康子代表取締役)が大賞を受賞。
(毎日新聞12月)

■上賀茂神社で星空映画祭

バンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバ
ル・イン京都が10月開催。パタゴニアが主
催。岡部達平氏プロデュース。
(京都10月)

■ジャズトランペット奏者浜田博行氏が 滋賀県文化奨励賞受賞

今津でペンションシーブを経営している、浜
田博行氏が第35回滋賀県文化奨励賞を受
賞。記念ライブを開催した(KEBUN友の会会
員だより12月)

M・O・Hせんりゅう2010 第4回ベスト3



《1位》 エコとエコ ころざしひとつで エコになる

《2位》 ありがとう 幸せ色の合言葉

《3位》 もったいない 思う心に エコ芽生え

<4位>ふと気付く 四季の自然を残したい

<5位>賞味期限 切れたら捨てるの もったいない

いずれも秀作です

せんりゅうを作ってくださった皆様、投票してくださった皆様、

メッセにお運びくださった皆様、有難う御座います

第5回のせんりゅうコンテストに向け始動開始します

まずはベスト10のセレクトから、

次号M・O・H通信をお楽しみに



♪M・O・Hせんりゅう♪コンテスト2011エントリー作品発表

♪ M・O・Hせんりゅうコンテスト2011エントリー作品です ♪

力作ぞろいです次回の執筆者懇談会でベスト作品を絞り込みますお楽しみに

27号

● もったいない、おかげさま、叫ぼう、

示そう高齢者

● 初夢に思い願ひし人の波

28号

● 古希の恋 吾は恋猫 君抱かな

● 草の根で 広げる 循環型社会

● 紙おむつ 可燃処理より 土に返せ

● もつひとふんばり おたがい ほめ

あつて

● 投票と 買い物で 革命を 起こす

● コミの山 衆知集めて 新素材

29号

● わが畑(はた)で とれた野菜で

幸せ朝食

● 買いたいと 思う心に 問い直す

● 我がによる 我らのための エコ活動

● もう(MOH) いいよ 無駄な生活

ほとほとに

● ほとほとに へんへんします

● MyLife すべて自然の

おかげさま

● 草の根で 広げる 循環型社会

● ご近所に 涼風贈る 水を打つ

● 考えよ 少しの我慢 未来の一步

● 規格外れの 食材使って 自慢料理作り

● もったいない! そこから井生える

「工口」

● ありがとう なにのおかげで 生きてるの?

● つかうだけ あふれている物 節約しよう

● みなおそう 自分のまわりの 「ゴミ」たちを

● もったいない! お菓子のついにレジ袋都合よい 身軽な言葉 ほげほげ

● 「工口」で きゅくつにならぬぞ ほげほげ

● おかげさま 周りの人に 感謝しよう

● 「ごはんまえ おごなもいづもも」 「いたたきませ」

● もったいない! 実践しなきゃ 意味がない

● おかげさま 感謝をしよう この恵み

● おかげさま 感謝の心を 忘れずに! 無駄遣い やつてもいけぬ

● 知らぬがよい

● 冷房が きつくて上着 もったいない

● ほとんどに 流行追っても 癒しなし

● 便利でも マイカー使用は ほげほげ

● もったいない! そんなに使って もったいない

● 無駄使い! ほげほげにしよう

● もつやめよう

● 三方よし 損得ならして 皆平等

● もったいない! ティッシュペーパーの使いすぎ

● 2010メッセ(10月)

● 婆さまの 勿体ないが 我が癖に

● みんなが みんなのために みんなの滋養人

● 子でごと 保護池 守ろう 地球

● ゲンシリヨクはわかり ソリニューシヨンの時代

● もう通信 いつも楽しく 読んでます

● 常口ころ 感謝の心を 忘れずに

● 今思う あふれるほどの もったいない

● がんばって

● もったいない! 物の命の しましまで

● もったいない! 昔の人のくちぐせが

● もったいない! いまからでも

● がんばって

● もったいない! あまりつるるな

● 夕食を

● もったいない! 気持ちのかたち

● 琵琶湖かな

「ちよこ」と

M・O・Hニュース

びわ湖環境ビジネスメッセ 2010

ダンボール製の展示什器、透湿防水素材でつくったレインパーカー(柄は浅井三姉妹にちなんだ家紋)、温 暖化防止ガラス 用フィルムなどを 展示。電子図 書のM・O・H図 書館がデビュー。 i padでお披 露目。



応援メッセージ

M・O・H通信の電子化を記念して、嘉田由紀子滋賀県知事、比叡山延暦寺小林隆彰長騰 写真家・今森光彦氏からメッセージをいただきました。



農村の魅力発信事業 「生産者・消費者交流会」

日頃、ご愛読いただいている読者の皆様と執筆者の交流会（M・O・Hの会）を開催させていただくことになりました。ぜひご参加ください。

当日は、いざなぎ、いざなみの大神が鎮座するといわれるまち、多賀で執筆者との楽しい語らいの時間を予定しています。また会場となる江戸時代の庄屋屋敷“多賀「里の駅」一圓屋敷”を運営される、多賀里山クラブの皆さんとの交流。次号に掲載予定の「滋賀の魅力応援カタログ」で取材した、“こだわりの衣食住”を支える県内生産者の皆さんと、滋賀の美味しいもの、美しいもののお話をしながら、自慢メニューを試食します。皆さんのご参加を心よりお待ち申し上げます。

日時 2011年3月26日 午後1時30分から5時

場所 多賀「里の駅」一圓屋敷（多賀町一円149番地）

プログラム 午後1時30分 開会

M・O・H通信交流会

・執筆者と読者の楽しい語らいの時間を設けています

午後3時 屋敷内見学

・多賀里山クラブのみなさんの案内で、歴史ある建物を見学

午後1時30分 生産者交流会

・「滋賀の魅力応援カタログ」に掲載された農漁工業生産者の皆さんから、熱い思いをたくさんお聞きします。試食もご用意する予定です

午後5時 閉会（それぞれの開始時間は目安です）

参加費 ひとり2,000円（交流会参加費を含む）

参加人数 60名程度

申し込み締め切り 2011年3月20日（土）

お申し込み方法 電話・FAX・メールにて下記へお申し込み下さい

お申し込み・お問い合わせ先

NPO法人木野環境（担当：川端、前田、北井）
〒600-8085 京都府京都市下京区葛籠屋町515-1
TEL:075-708-8061 FAX:075-708-8062
Email: oubo@kino-eco.or.jp

[主催] M・O・H通信、湖国の里山、木野環境

「M・O・Hの会」(M・O・H通信交流会) &



全景 一円集落から晩秋のそば畑を望む



趣きある多賀「里の駅」一圓屋敷の玄関



庭の片隅には、この地では珍しいもみの木が植えられ、井伊家と深いかわりがあったことを物語っているといわれています



多賀「里の駅」一圓屋敷、昔ながらの「四間取り型」の座敷。広い濡れ縁の奥には、上客用のトイレが設けられるなど、格式高い邸宅であったことがうかがえます

読者の声

★森会長様と対談して以降「そこそここの」が金融危機以降、経済のあるべき方向感として定着した感が、慧眼恐るべし

日本生命 会長 宇野郁夫

★あつというまになくなります。MOH通信

比叡山延暦寺 大角実豊

★今関先生に紹介頂いた川柳作家平賀先生に「秋の川柳教室」の講師に来ていただきました。中身のある教養講座でした。

栗東市生涯学習課 片岡

★京都新聞の歌壇で佳作に入りました

長浜市 漣

★地域がいきいき元気に国の繁栄につながるというですね。「グレイス」に行ってみました

佐倉市 平田和子

★今関先生と対談した和歌山大学の山本先生が学長に就任されました。

京都市 黒川美富子

★湖畔に集まるアユの写真びっくり。すごいですね。生命をモロに感じます。

西宮市 西本柳枝

★貴社を見学し社員の方の温かい対応と、貴社の理念、森会長のお考えに感心しました。

高島市 深田源蔵

★「古代文明が減びたのは木材を使いすぎて枯渇したから」田舎暮らしフェスタの対談に感銘

長浜市 伊藤兵一郎

★「湖国と文化133号」湖北の観音さん

を回るに、小生が居住の高月町唐川

赤後(しゃくご)寺が紹介され、友で

ある笠原祐氏の四男の恵ちゃんも紹介

されてました。なんかMOHに関連

があるなど、話が盛り上がりました。

高月町 雨森善司

★滋賀が活発になるのでは？

ちやる

★今後ともよろしくお願いします

いざないこぼく 豊田

★曼珠紗華今燃えます立ってます。御食国若狭おばま歴史街道ウォークから帰ってきました

小西 寛信

★はじめて読みました

茨木市 小西千春

★「もう爺さん」「うしさん」のスタンプ、癒されますねえ

滋賀大学 弘中史子

★10万語の論文提出を控え、日夜奮闘しています。滋賀をロンドンで紹介

します

University of London

★短い時間にお話いただき恐縮しました。

中野栄美子

日下部笑美子

《次号予定》

2011年3月発行予定

■特集：未来予想図【可能性】

- 対 談 / 「日本でいちばん大切にしたい会社」法政大学大学院 坂本光司
- 取 材 / 「事業承継について」同志社大学
- カタログ / 「滋賀の魅力応援カタログ」
- 取 材 / 「若手農業者を育てるmotokoさん」
- 寄 稿 / 「アースシップ」アメリカサンタフェ郊外タオス清水陽介
- レポート / 環人会現場研修会
- コラム / ①インターナショナルメッセージ
②手話メッセージ
- 連 載 / 通常通り

※ 敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

「森を燻製工場に」できないかなあ？鹿、猪、熊を素材にして、燃料は伐採樹木、チップは桜の木を使って美味しい『ハム』を製造します。肉だけじゃないよ魚もスモークフィッシュにすれば美味しいよ。販売は都会へ業務用に卸せば安定需要が見込めるし。山村に産業ができれば雇用もできる。息子が帰ってくるかも……。限界集落を救うには、自然の資源を流通にのせること。害獣を美味しい料理に、樹木は燃料に。自然の浄化作用が復活するかも。食料が自給できる。高知も森林に悩んでいます。滋賀もどうですか？

ホルスタインことみ

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

《M・O・H通信》申込書

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.30 (通巻31号) 2010年12月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局

代表 森建司

編集長 つじむら ことみ

編集協力 稲垣 重雄

取材 細井 美保

荒木 美晴

イラスト ダニー

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

印刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

ブログ 滋賀・咲くブログ

●執筆者懇談会

内藤 正明	畑 裕子
海東 英和	堤 幸一
山田 朝夫	進 ひろこ
下西 康嗣	中村 誠
末永 國紀	笹山 千怜
花田 真理子	結城 美枝子
弘中 史子	松崎 和弘
今関 信子	井上 昌幸
山崎 隆	辻村 耕司
三山 元暎	佐々木 洋一
加藤 みゆき	徳永 拓美
清水 安治	山口 美知子
禮上 俊雄	岡部 達平
森 孝之	豊田 一美

(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県	近江環人&環人会
琵琶湖環境科学研究センター	もったいない学会
循環共生社会S研究所	野洲生活学校
高島森林体験学校	EEネット
麻生里山センター	中小企業家同友会

(順不同)

●支援

新江州(株)
〒526-0111
滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681
★ブログ 滋賀・咲くブログ★
<http://moh.shiga-saku.net/>
★ホームページ★
<http://www.mohmoh.jp/>

※記事中の写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。